

# クロスロード

11

特集

年末年始は特に注意を！

セルフディフェンスの見直しと徹底







## 表紙よせて

「混沌=カオス」という言葉が似合う国、インド。道端や路地裏を闊歩する牛を横目にバザールの活気とスパイスの香りを全身に感じるこの国は、祭りのエネルギーも桁違いだ。春の訪れを祝うホーリー祭の日、任地オディシャ州の卓球場でも「ハッピー、ホーリー」のかけ声と共に誰彼構わずカラフルな粉をかけ合い、そこかしこで粉塵が舞った。坂本卓也さん（インド/卓球/2019年度1次隊、モロッコ/卓球/2010年度2次隊・大阪府出身）

2 子どもたちに伝えたいSDGs —世界の学校

3 ■Contents ■索引

4 JICA Volunteers' Reports

特集

6 年末年始は特に注意を！  
セルフディフェンスの見直しと徹底

14 派遣国の横顔 ルワンダ  
～知っていますか？派遣地域の歴史とこれから

20 専門家に聞きました！  
失敗に学ぶ ～現地で役立つ人間関係のコツ

22 この職種の先輩隊員に注目！ ～現場で見つけた仕事図鑑

24 ひきつけるアイデアを共有  
みんなの教材づくり&アクティビティ

26 先輩隊員のシューカツ記

28 派遣から始まる未来  
進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員

30 待ってます、あなたを！ ～各界からのエール

31 あの日、地球の、あの場所で。

32 JICA海外協力隊派遣現況

33 INFORMATION ～JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ～

34 隊員めし 現地で作った日本食、日本で作る現地めし

36 ウチのこだわり —OB・OGショップ

■国別索引	掲載ページ
インド	1
インドネシア	36
ウズベキスタン	7
エチオピア	26
ガーナ	34
スリランカ	5
タンザニア	24
ニカラグア	8
ネパール	21
パプアニューギニア	22
ペルー	22
ホンジュラス	2
マレーシア	28
モロッコ	1, 31
ルワンダ	16, 17, 18
ヨルダン	4

■職種別索引	掲載ページ
コミュニティ開発	17, 18
野菜	21
園芸作物	21
観光業	7
環境教育	5
陸上競技	36
水泳	4
卓球	1
野球	8
理科教育	22
数学教育	24
体育	26, 31
小学校教育	2
栄養士	34
ソーシャルワーカー	16
養護	28

■出身都道府県別索引	掲載ページ
北海道	7
岩手県	8
福島県	31
茨城県	36
東京都	22, 24, 28
神奈川県	26
愛知県	5, 16, 17
奈良県	2
大阪府	1, 22
京都府	18
広島県	4
鹿児島県	21, 34

【凡例】  
JICA海外協力隊の隊員（経験者を含む）については、次のように表記しています。

国際協力さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)	氏名	派遣国	職種	隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。



子どもたちに  
伝えたいSDGs  
世界の学校

算数オリンピックの決勝戦の最中、子どもの質問に答える土井さん(写真左)。会場では教師向けに県内の優秀な先生を招いてセミナーを行った。

3年生の教室で学び合い、教え合いをしている様子。「日本の学校では定着していた光景ですが、ホンジュラスでは子ども同士で教え合うことは非常にまれでした」(土井さん)

## ホンジュラスの小学生を対象に 算数オリンピックを開催

土井誠人さん(ホンジュラス/小学校教育/2017年度1次隊・奈良県出身)

ホンジュラスのチヨルテカ市に属し、小学生の算数指導を担当し、任期中に算数オリンピックも開催しました。私が担当したのは市内の二つの小学校の4〜6年生。子どもたちは「ほとんどの名前を漢字で書いて」と日本語に興味津々でした。普段の授業では教科書の内容をきちんと終わらせ、単元テストを行い内容の定着を図りました。すると私が教えていたうちの1校は、共通テストの成績がほかの協力隊員が受け持つ6、7校中で最下位でしたが、正答率が最大24%も上がりました。

算数オリンピックは、私が着任してすぐの9、10月にホンジュラスで活動する算数・数学を担当する隊員6、7名が中心となって開催しました。ホンジュラスの小学校は、授業時間が流動的で算数の教育課程も修了できないことが多かったため、すべての修了を目的に先輩隊員が始めたものです。教育委員会への後援依頼や会場確保など、先輩たちのノウハウを参考に順調に実施できました。

9月初めに市内の40校の1〜6年生までの各学年代表が一堂に集まって問題を制限時間内に解き、各学年表約50名で実施。問題は過去の出題を参考に私が作成しました。また筆記だけでなく、口頭による出題もあり、6年生は分数のかけ算の答えがわかった人から挙手して答える勝ち抜き戦でした。日本の小学生でも中の上レベルの難度で、現地の子どもたちにはかなり難問だったと思います。ガラス越しの隣室から見守る保護者の、子どものことが心配そうな様子は、万国共通だと感じました。最後に表彰される子どもたちは誇らしげで、算数が得意な子どもたちに輝ける機会を提供できたことは、嬉しい思い出です。学校の先生たちにも指導の目標を持ってもらえたと思います。



from Japan



## クラウドファンディングで目標金額達成！ 紅茶農園の子どもに制服と学用品を届ける

清水加奈子さん（スリランカ／環境教育／2014年度1次隊・愛知県出身）

2022年8月21日、クラウドファンディング「経済危機のスリランカ・紅茶農園の子供達に制服・学用品と食料を贈る」プロジェクトの支援金を集めることに成功しました。

19年の連続爆破テロ、その後のコロナ禍による主要産業の打撃、ウクライナ戦争による物流停滞、国内経済政策の失敗などが重なり、スリランカは独立以来最悪といわれる経済危機に直面しています。そのようななか、スリランカの紅茶農園を研究しているチャンドラボース先生から、「出身地のコタガラ地域の子どもたちを助けられないか」と相談がありました。

物価が高騰し物資が不足しているうえ、コロナ禍で紅茶農園の収入が激減し、農園で働く日雇い労働者の生活はかなり厳しい状況だといえます。スリランカでは大学までの学費は無料ですが、学用品は各家庭で購入しなければならぬため、子どもたちが学校に行かなくなっていくことも容易に想像できました。特に困窮している子ども222人に必要な費用として算出されたのは160万円以上。自ら捻出できる金額ではなかったため、クラウドファンディングで呼びかけました。

背景には、協力隊時代の経験がありました。当時、私はゴミ処理場の運営強化や市民への啓発活動を行って

て、まずは自分が泳いでみせる。重要なことは短時間で伝える。選手の集中力が切れそうになったら、自ら声を出して場を盛り上げる。信頼できそうな選手には「おまえが引っ張っていつてくれ」と一対一で話すなどしました。すると、徐々に話を聞いてくれるようになり、選手やほかのコーチにも変化が表れてきました。

22年6月にブダペストで開催された第19回世界水泳選手権大会では、ヨルダンの2名の代表選手のうち、1名が男子200m平泳ぎで準決勝進出という結果を出しました。これはヨルダン人として初の快挙です。私はあまり関わっていないのですが、協力隊の前任者が2年間指導していた選手でした。ヨルダンの水泳に関わる協力隊員の一人として、つないできた絆を感じられたことが嬉しかったです。

最大の目標は、23年に福岡県で開催される次回の世界水泳選手権に、多くのヨルダン人選手と参加し、これまで以上の結果を残すことです。同時に、クラブチームにも働きかけ、水泳の楽しさを広く伝える活動もしていきたいです。ヨルダンは水泳の競技人口が少なく、地方ほど認知度も低いのですが、私が選手としてヨルダンの水泳大会に出場すれば「外国人が泳いでいる」と興味を持ってもらえます。

いました。そこでゴミの回収・分別を手作業で行っていたのが、主に民族的マイノリティであるタミル人でした。私は彼らが住む集落に通って交流を重ねましたが、一方、民族的マジョリティであるシンハラ人職員からは、「あの集落には行かない方がいい」と何度も釘を刺されました。

そこで見たミクロなレベルの差別から民族問題に関心を持ち、帰国後スリランカの清掃労働者の問題を研究し向き合っていくと、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科の門をたたきました。研究を通して知り合ったのが、紅茶農園出身で苦学の末に大学教授になったチャンドラボース先生でした。紅茶農園の労働者もほとんどがタミル人でした。

プロジェクト期間中は、SNSのInstagramで専用アカウントを作って告知したり、チラシを作ってスリランカ料理店や紅茶専門店などに置いてもらったりしました。リターン品に紅茶を追加し、新着情報もできるだけ毎日更新。「目標金額が高すぎる」「支援金はどこに渡すのか」などの声にはその都度根拠となる数字や資料を示し、丁寧な説明を心がけました。

支援者は201人となり、目標金額を超える240万9200円が集まりました。9月下旬から制服・学

- 1 自身も紅茶農園出身のチャンドラボース先生（左）と清水さん。「いつか支援した子どもたちのなかから日本に留学する子が出てくるといいね」と話している
- 2 コタガラの支援校の子どもたち
- 3 協力隊時代、交流を深めた清掃労働者たち。清水さんは彼らの集落によく通った



用品・食料品の配布を開始します。制服は布から仕立てたもの、食料は栄養価の高い卵と牛乳を1週間に1度、3カ月にわたって届ける予定です。調査でスリランカに行く際には現地へ行き、支援対象者の状況を確認するなど、今後も継続して追跡します。

from Jordan



## その先の世界平和を見据えて 努力して結果を出す喜びを教えていきたい

福山 傑さん（ヨルダン／水泳／2021年度2次隊・広島県出身）

広島県出身の私は幼い頃から原爆の脅威や平和について考える機会が多く、世界中からの支援で今の広島街があることも学びました。世界平和への意識はずっとあり、幼少期から続けてきた水泳を生かして人々の笑顔や幸せ、平和に貢献したいと考えていたとき、青年海外協力隊という道を見つけました。

2021年10月に赴任したヨルダンで、水泳ナショナルチームのコーチとして、ヨルダン人コーチ3人と共に約20人の選手を指導しています。12歳から28歳までいる選手たちの水準はさまざまですが、日本人選手と比べて基礎が身につけていない印象です。技術や知識だけでなく、努力することの大切さ、結果を出す喜びなど、教えるべきことはまだあると感じます。

赴任当初は文化の違いにも戸惑いました。集合時間に遅れることは当たり前で、地味な反復練習ほど集中力が途切れがち。ラマダンの期間は空腹を言い訳にする選手もいて、私が声をかけると「おまえには気持ち悪くならないだろう」と言い返されたりもしました。「なんでもっと頑張らないのか」と思いましたが、日本のやり方を押しつけるのではなく、彼らの文化を尊重し、寄り添うことを心がけています。幼少期から大学まで選手として水泳を続けてきた強みを生かし

て、まずは自分が泳いでみせる。重要なことは短時間で伝える。選手の集中力が切れそうになったら、自ら声を出して場を盛り上げる。信頼できそうな選手には「おまえが引っ張っていつてくれ」と一対一で話すなどしました。すると、徐々に話を聞いてくれるようになり、選手やほかのコーチにも変化が表れてきました。

22年6月にブダペストで開催された第19回世界水泳選手権大会では、ヨルダンの2名の代表選手のうち、1名が男子200m平泳ぎで準決勝進出という結果を出しました。これはヨルダン人として初の快挙です。私はあまり関わっていないのですが、協力隊の前任者が2年間指導していた選手でした。ヨルダンの水泳に関わる協力隊員の一人として、つないできた絆を感じられたことが嬉しかったです。

最大の目標は、23年に福岡県で開催される次回の世界水泳選手権に、多くのヨルダン人選手と参加し、これまで以上の結果を残すことです。同時に、クラブチームにも働きかけ、水泳の楽しさを広く伝える活動もしていきたいです。ヨルダンは水泳の競技人口が少なく、地方ほど認知度も低いのですが、私が選手としてヨルダンの水泳大会に出場すれば「外国人が泳いでいる」と興味を持ってもらえます。



- 1 ナショナルチームの選手たちと福山さん
- 2 練習のときに民族衣装を見せてくれた選手たち

るかもしれません。

今、こうしてヨルダン人と共に目標に向かっていくこと、休憩時間にたわいもない話で笑い合えること、すべてが世界平和につながっていると感じます。任期が終わっても、何らかの形で世界平和に貢献する活動を続けたいです。



# CASE1



しげや まさはる  
澁谷政治さん

ウズベキスタン/観光業/2004年度3次隊  
北海道出身

## 被害報告書

事案名：交通事故（衝突事故）  
発生地域：アジア  
発生場所：砂漠  
発生時間帯：日中（平日の午前中）



観光案内業務中の澁谷さん（左）

# あなたの身にも起こり得る、 先輩隊員が遭った事件・事故

事件・事故はいっ訪れるかわからない。大きな被害を受けた2人の先輩隊員が、「隊員が少しでも安全に過ごすための参考になるなら」と話してくれた経験談を紹介する。

ウズベキスタンで交通事故に遭った澁谷政治さん。任地外の活動イベントに参加するため、早朝から5人乗りの乗り合いタクシーに乗車した。目的地までの400kmの道のりは周囲に何も無い土の砂漠とあって、運転手は時速120kmで走行していたという。

ところが、対向車線から車の列が向かってきた。ウズベキスタンでは結婚の際、新郎新婦をはじめ親戚などが街を練り歩き、地方では飾りつけをした車数台に乗り込み移動して祝う風習がある。澁谷さんが乗ったタクシーと衝突したのは、そのうちの1台だ。

「新郎新婦に喜んでらおうと思った

の、親族の若者が乗った2台がカーチェイスをしながら向かってきました。1台がもう1台に急な追い抜きをかけてきて、こちらのタクシーは避けられずに正面衝突しました」

運転手の背後のシートに乗車していた澁谷さんは一瞬気を失ったが、目が覚めたときには運転手と共に車内で挟まれており、左ドアのガラスの破片が顔面から上半身に刺さって血だらけの状態だった。ほかに乗車していた3人は車外に飛ばされ、指を切断している乗客もいた。死者こそ出なかったが、対向車も含めた全員がケガをし、現場は惨状と化していた。「痛みを感じる間もなく必死で車外に出ました。トラックにパソコンを入れていたので『荷物を出してくれ』と周囲に懇願したことは覚えていません。その後、企画調査員「ボランティア事業」（以下、VC）に電話をかけましたが、声が出ない。それで口のなかにガラスの破片がたくさん入っていることに気づきました」。

澁谷さんは現場近くの診療所で応急処置を受け、さらに近くの都市に車で移動して看護師隊員に処置をしてもらい、飛行機で首都の病院に搬送された。



事故後のケガの様子。もう少しで目にも傷を負うところだった

それから1カ月余りの療養生活を送るようになった。

人が運転する車に乗る場合、こうした事故を防ぐにはどうしたらいいか。「何か変だな」と感じた際には、具体的な行動に移したほうがいいと思います。ウズベキスタンでは、長距離の乗り合いタクシーは同乗者と安全祈願のお祈りをして出発することが多いのに、この運転手はしなかった。少し不安を感じていたところ、砂漠に入ってから前を見ているので、眠らずにスピードを出したので、眠らずにしっかりと身構えられました」と澁谷さん。

しかしながら、スピードを落とすように注意したり、不安を感じた時点で降車したりしなかったことは後悔している。今でも時々事故の瞬間を思い出し、恐怖を感じることもあるそうだ。

年末年始は特に注意を!

# セルフ ディフェンス の見直しと徹底

～派遣国における安全対策～

年末年始に向け、12月は世界的に犯罪や交通事故、テロ事案などが増える時期といわれる。加えて、今年は新型コロナウイルスの流行や物価高騰など、社会・経済の混乱などにより、世界的に治安が悪化する傾向にあるという。派遣国で地域の人々と共に活動するJICA海外協力隊員（以下、隊員）にとっては、地域に溶け込みながらもより緊張感を持った行動が必要になる。本記事でJICAの安全管理体制を確認すると共に、セルフディフェンスの基礎を見直し、安全対策を徹底していこう。



特集 セルフディフェンスの見直しと徹底

隊員をはじめ、JICAの在外拠点の職員やスタッフ、専門家、本邦からの出張者など、JICA関係者の海外渡航件数は年間2万人を超える。その安全管理を担うのが「安全管理部」だ。各国・地域の担当者が所属する「安全対策第一課」「安全対策第二課」、安全対策研修や教材・機材の準備、制度面での検討などを担当する「計画課」があり、総勢38人。警察の豊富な経歴を持つ「安全対策アドバイザー」4名も所属し、専門的見地から具体的な安全対策を助言する。また派遣前訓練や現地への巡回指導を通じ、個人の安全意識や行動変容に働きかけを行っている。

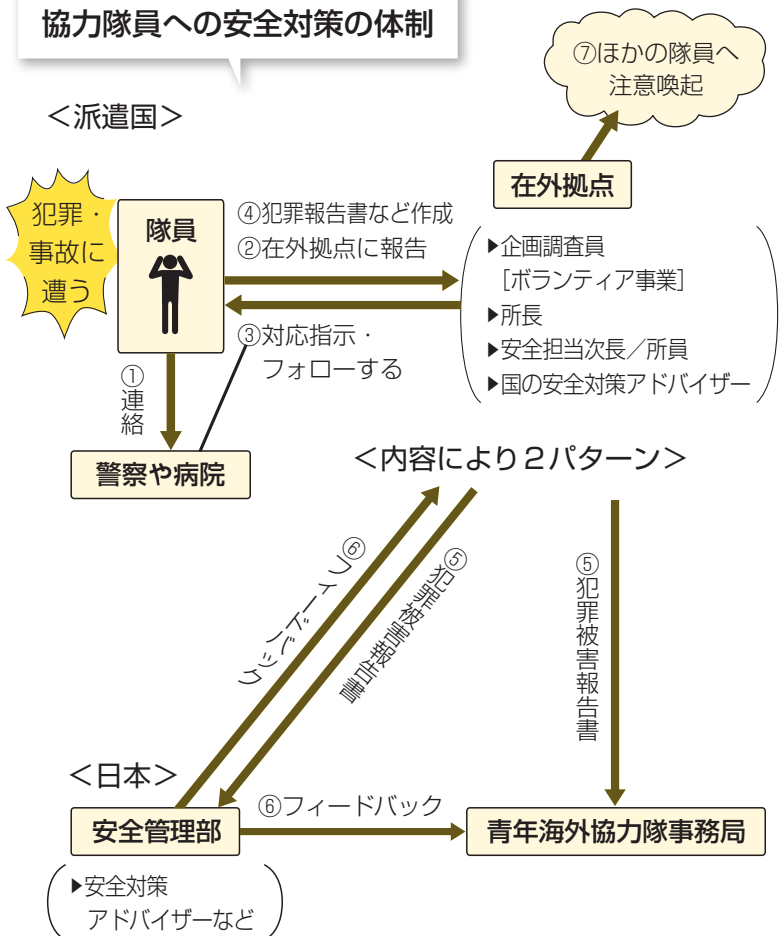
このほか、世界約100カ所にあるJICAの全在外拠点には安全担当の事務所員や次長（もしくは所長）があり、現地の事情に詳しい安全対策アドバイザーを配置する。「すべての関係者が安全に渡航し、安全に業務や活動を行い、安全に帰国する。その結果にコミットするのが安全管理部です」と、計画課の大宮航時課長。

隊員の安全対策は、派遣前訓練で実施される安全対策講座から始まる。在外拠点では到着時のオリエンテーションに加え、年に数回、安全対策連絡協議会を実施し、各国・地域に合った安全対策を取っている。新型コロナウイルス感染症拡大による隊員の一時帰国から、派遣は再開され始めたものの、既に被害報告が出ており（下枠参照）、なかには重大な被害につながりかねなかった事実も含まれているようだ。

JICA 海外協力隊員の被害は?  
(2020年秋頃からの派遣再開～2022年9月上旬の一般犯罪の件数より)

- 1位 スリ ..... 人混みで気づかないうちに貴重品を盗まれる
- 2位 置き引き ..... 置いていたはずの貴重品がなくなる
- 3位 ひったくり ..... スマホやバッグをいきなり奪われる
- 4位 空き巣 ..... 留守宅に侵入されて貴重品を盗まれる

協力隊員への安全対策の体制



# JICAの安全対策の体制

あらゆる事件・事故に備える

安全管理部に籍を置く安全対策アドバイザーの市橋幸夫さんは「事件・事故に遭遇したり被害に遭いそうになったりしたときには、すぐ担当のVCに連絡を取ってほしい」と重要性を強調する。現地警察が事件として扱う可能性を踏まえ、状況が許すなら現場の証拠写真なども撮っておくというそうだ。再発防止の観点からは、事件・事故後に作成する「犯罪被害報告書」が重要になる。被害（未遂も含む）に遭遇してしまった隊員は様式に従って報告書を作成、在外拠点で確認・コメントを

加えたものが、本部に提出される。「安全管理部ではまず安全対策アドバイザーが報告書を確認し、今後同様の被害や二次的被害が起きないように、部でまとめたコメントが在外拠点に返送されます。在外拠点では、そのコメントを参考に対策を取ったり、ほかの隊員への注意喚起に生かしたりする体制を取っています」（市橋さん）

しかし、2022年8月ごろには特にアフリカ地域でスリ・盗難・路上強盗などの犯罪被害数が急増した。多くはちよつとした注意を怠らなければ、

避けられた事実と分析されている。「健康で犯罪被害に遭わずに2年間活動して帰国すること」が至上命題だが、隊員自身の行動や意識なくして、これは達成し得ない。協力隊事務局としても、犯罪被害はいかに未然に防ぐかが重要という考えがある。そのため、自分の行動を見直し、律するような意識づけを目的として、派遣中隊員に対し、小林広幸局長から注意喚起メッセージを発売したり、安全管理部の協力も得て安全対策セミナーを実施したりしている。

**被害報告書**

事 案 名：拳銃強盗  
 発 生 地 域：中米  
 発 生 場 所：首都・ホテル近くの歩道  
 発 生 時 間 帯：6月。  
 平日の午後、明るい時間帯

## CASE2



鈴木聖哉さん  
ニカラグア/野球/2016年度2次隊/岩手県出身

鈴木聖哉さんは、ニカラグアの首都からバスで40分ほどのマサヤ県で子どもたちに野球を教えていたが、社会保障改革を発端とした反政府デモが勃発。同国で活動するほかの隊員と共に一時避難のため、首都に集められていた。被害に遭ったのは、事態の収束が見込めず、在外事務所帰国についての説明を受けた直後だった。お昼過ぎの明るい時間帯に、事務所から徒歩10分ほどの距離にあるホテルへ同期隊員と向かう途中、ピストルを持った強盗が現れ、金品を要求された。

「2人乗りのバイクが我々を追い越して止まったと思ったら、1人が降りて早口で何かをまくしたてながらこちらに歩いてきたんです。見ると手にピストルを持っていたので、同期も私も無抵抗で持っていたバッグを渡しました。ポケットも触られ、入れていたスマートフォンも取られてしまいました」

強盗が去るまで1〜2分と、あっという間の出来事。発生場所は大通りから1本入った人けが少ない道だったが、ホテルに向かうには通らなければならぬ道だった。バッグにはタブレット

端末と帰国のために下ろしてきた現金や支給されたばかりの避難手当（日本円で合計10万円程度）が入っていた。「中米でも治安が良く、気をつけていれば夜間に歩くこともできる国だったのに……。自宅近くは『革命の聖地』で家に荷物を取りに行くこともできず、リュック一つで首都に避難してしました。ニカラグアでの思い出の写真がたぐさん入ったスマートフォンやタブレットを取られたのが特に残念です」

すぐに事務所に引き返して被害を伝えたと、現地の警察は反政府デモ対策に追われて出払っており、泣き寝入りするしかなかった。

5分前に1人でホテルに戻った女性隊員は被害に遭わなかった。また、一部始終を見ていた道沿いの雑貨店の店主からは、「この辺りを何回も巡回するバイクがいた」といった証言も出てきている。鈴木さんに被害を小さくする方法があったか聞いたところ、次の答えが返ってきた。

「デモに伴う治安の悪化に鈍感だったかもしれない。ニカラグアで1年8カ月活動し、首都には何度も来ていた



子どもたちに野球の楽しさを広める鈴木さん（中央）

こと、男性2人だったので多少の気の緩みもあったと思います。シークレットポーチを使うなどして貴重品を分散したり荷物を最小限にしておけば、被害は少なくともきたのかもしれない。訓練所で習った無抵抗主義が思い浮かびましたが、ピストルが小さかったので、『おもちゃでは?』と疑いかけました。しかし同期隊員がすぐ荷物を渡したことで、私も『無抵抗で?』と考えを改めることができませんでした。のちに外国人への暴行事件も起きたので、無抵抗だったから物だけで済んだと思います」

冒頭に2人の先輩隊員の実例を紹介したが、未然に事件・事故を防ぐために、また実際に事件・事故に遭ったときに備えて、JICAの安全対策はどのような体制かを知っておこう。安全管理部に取材した。



# セルフディフェンスの見直しと徹底

## 安全対策アドバイザーが教える

# 派遣国のセルフディフェンス

日夜海外の安全対策に注力している安全対策アドバイザーの方々に、犯罪・事故に備えるための具体的な対策を教わった。

**Q** 屋外を歩く際の注意点は？

**A** ① バッグの斜め掛け、たすき掛けはやめる。  
② スマートフォン(以下、スマホ)をむやみに取り出さない。

① ひもを引っ張られて引きずられたりすると、大けがをする恐れもあるため。

② 画面を見ている際にスリの被害に遭ったり、スマホ自体を盗まれたりする可能性があるため。どうしても道端で電話をしなければならぬときには、「相手に後ろ(背中)を見せない」。背中側を壁にして立ち、周囲に気を配りながら手短かに電話を済ませる。

③ イヤホンをして歩かない。

ひたたくり犯などが近づいてきたとき、外部の音が聞こえないと気づきにくくなってしまうため。歩くときには視覚、聴覚を働かせ、周囲の動向に気を配りながら、目的地までさっさと歩いたら、犯罪行為の前触れと思っただけで、犯罪行為の前触れと思っただけで、不審な人物に取り囲まれないように注意を。



**Q** 道端での性被害を防ぐには？

**A** 正面から歩いてきて、自分の視線を向けていたら「怪しい」と思い、Uターンや店に入ってリスク回避をする。

外国人の女性なら触っても大丈夫、と思っている人もいる。怪しい人間が近づいてきたら、自分の手を伸ばして届かない距離の間合いを必ず取る。正面に立たず、斜め45度くらいに立つと通り抜けられる可能性がある。飲食店で外に共同トイレがある場合は、単独で行かない。待ち伏せされて個室に押し入れられた事案もある。

**Q** 自宅警備員との付き合い方は？

**A** ビジネスライクに接して、決して家に上げたりしない。

雨が降ったときに洗濯物を取り込んでもらったり、ちょっとした買い物頼んでお小遣いをあげたり、良好な関係を築こうと部屋に上げてお茶を出すといった行動が誤解を招く。性被害に遭った事例は女性だけでなく、男性もある。

**Q** 自宅侵入対策は？

**A** 「ワンドアローロック」1つのドアに2つの錠前、あればドアチェーン、ドアガード、窓には鉄格子をつける。天井なども確認し、必要があれば修繕しておく。

自分が家にいるときには、入れられないようにすることが重要。来訪者にはチェーンをかけて接し、面倒でも、すべての鍵はかけて寝る。家の周囲の雑草は刈って見晴らしをよくしておく。普段使っていない部屋に犯人が隠れていた事案のほか、敷地内に隠れて外出を待っていたという事案もある。



**Q** ホテルの貴重品管理方法は？

**A** スーツケース、セイフティボックス、身に着けるなど、現金や貴重品は3つくらいに分けて保管する。

セイフティボックスに全財産は入れない。従業員なら開錠可能のため。

**Q** 貴重品の持ち方は？

**A** 分散して持つ。

1つのバッグに財布、スマホ、鍵を一緒に入れない。「スマホは首から下げて胸ポケットに入れる。現金はインナーバッグを使う」などの工夫を。スマホが盗まれたり、使えなくなったりしたときに備え、緊急連絡先などを紙にメモして別に保存しておく。

**Q** 道で私服の警察官に声をかけられたら、従うべき？

**A** JICA事務所の関係者に電話連絡し、電話を代わってもらう。

過去には偽警官が私服で警棒のようなものを振り回していた事案や、本物の警官が不当な理由をつけてお金を巻き上げようとした事案もある。

**Q** 車に乗客として乗ったとき、事故を防ぐ方法は？

**A** 乗車前に確認する。

整備と運転手をチェックし、シートベルトがいないような車、酒臭い運転手の車には乗らない。乗車時はドアをロックし、シートベルトをする。運転手がスピードを出し過ぎていたら「安全運転をお願いします」と勇気をもって伝える。危険運転が止まらないようなら、料金を払ってでも降りる。「自分の身は自分で守る」と自覚し、事故に遭わない対策を。



**Q** クリスマスやラマダンといった宗教行事期間中の注意点は？

**A** 道を渡るときは運転手とアイコンタクトを。荷物は最小限に。いつも以上の注意をする。

運転手が早く帰宅したいと焦ることによる交通事故や、人混みに出かけていくことでスリやひたたくり、テロに遭う可能性も考えられる。人が増えるタイミングに人の集まる場所に出かける必要があるかをよく考えて行動する。

**Q** 自宅が被害に遭ったら？

**A** 未遂も含めてVCに相談する。

そこに住み続けたい場合、いい場合もあるため、犯人の目的がお金や物品だけか、恨みを買っていないか、ストーカーなどの可能性がないかを振り返る。

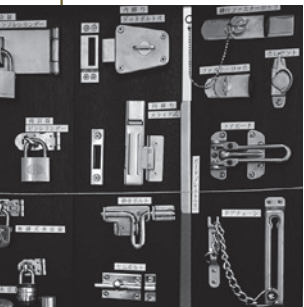


写真提供:久野武志/JICA

**Q** 活動先での性被害を防ぐには？

**A** 我慢せずに自分の意思をはっきり伝える。

断り方、言い回しは、JICA事務所に相談し、JICA事務所のナショナルスタッフや配属先の信頼できるスタッフに聞く。異性と二人きりにならない、メールや携帯電話番号などの個人情報教えないなど、上手に線引きをする。男性でも女性でも性被害を受ける可能性は十分ある。「小さなことだからこれくらい」と受け入れたら、この人はOKだと思われてしまう。



### ■お話を伺ったのは

#### 安全対策アドバイザー

交通安全対策 高橋政人さん  
1982年警視庁警察官を拝命、2020年同退職、JICA入構

一般犯罪対策 市橋幸夫さん  
1980年警視庁警察官を拝命、2018年同退職、JICA入構

一般犯罪対策 神谷郁雄さん  
1982年神奈川県警察官を拝命、2019年同退職、JICA入構

一般犯罪対策(性犯罪対応) 齋藤牧枝さん  
1981年警視庁警察官を拝命、2018年同退職、JICA入構

### ■安全管理部からのメッセージ

犯罪の形態は、日本国内も海外もあまり変わりません。屋外犯罪は、「スリ、ひたたくり、置き引き」。屋内犯罪は、知らないうちに部屋のなかに入ってくる「忍び込み」。そのほかには屋内、屋外どちらでも起こり得る「強盗」です。ただし、例えば日本ではスマホは多くの人が持っているため、窃盗の対象になりますが、途上国では窃盗の対象になり得ます。

特に現地に入って2年間活動をする隊員の方々の場合、現地の生活に慣れ過ぎて犯罪・事故に遭うケースもあります。また、「日本人だから大丈夫」「ボランティアという良いことをしているから大丈夫」など、油断がある方もいます。派遣前研修ですべての隊員に配布している「海外安全対策ハンドブック」を読み込み実践していただければ、たとえ被害に遭ったとしても、被害を最小限に抑えることができるはず。ご自身の命を守り、2年間の活動を無事に終えるためにも、読み込んで活用してください。



<https://www.jica.go.jp/about/safety/measure/index.html>

※「海外安全対策ハンドブック2021」はこちらから。閲覧パスワードは派遣前訓練時に共有(対外秘)。





外出先で

市場を散策中に起きた事例

被害報告書

事案名：詐欺盗  
 発地域：アジア  
 発生場所：市場  
 発生時間帯：11時30分～12時  
 被害内容：約2000円×2人=約4000円(現金)

Eさん、Fさんは市場を散策中に6人組の男(警察官の服装をした5人とリーダーと思われる私服の男1人)にパスポートの提示を求められた。人けのない近くのコンテナに連れていかれ、「麻薬をやっているのではないか? 荷物をすべて見せろ」と言われたため、そのとおりにした。男たちは財布の中身を確認したあと、2人を解放した。

Eさん、Fさんが財布を確認したところ、それぞれ約2000円相当の現金が抜き取られていたため、翌日事務所に報告。事務所では再度安全対策の注意喚起を行った。

< 対策 > ~ 安全管理部より ~

偽装警察官が職務質問をしながら金品を窃取する手口です。この場合、相手の身分をしっかりと確認し、不審に思った場合は「警察署に行く」「大使館に問い合わせる」などと告げ、相手に「これはまずい」と感じさせることが大切です。決して相手の車両に乗ったり、人けのないところに連れていかれたりしないように注意してください。

ホテルで

短時間ホテルから外出した際に起きた事例

被害報告書

事案名：窃盗(ホテル荒らし)  
 発地域：アフリカ  
 発生場所：ホテル  
 発生時間帯：20時20分～21時  
 被害内容：パスポート、日本円にして約49万円(現金)、ノートパソコン、ハードディスクドライブ×2、SDメモリーカード×2、クレジットカード×3、財布など

鍵はかかっておらず、室内にあった3つのカバンはすべて開けられ、パスポートをはじめとする貴重品などがなくなっていた。カバンは鍵付きだったが、すべてジッパー開閉で、ジッパー部分が引き裂かれていた。

隣室にいた同僚は「20時30分ごろ鍵をガチャガチャする音を聞いたが、向かいの部屋だと思った」と言う。事実、鍵に似たような形状のもので無理やり開けられていた。犯人はホテル内部の人間と予想される。短い外出時間に事件が発生したことに加え、Iさんは部屋の番号が書かれたプレートを外して鍵を携帯していたことから、どの部屋かを外部の人間が把握するのは難しかったためだ。

Iさんはホテルの管理人に報告してから警察に通報。在外事務所からはパスポートの保管方法について、ほかの貴重品と一緒に保管しないなど、注意喚起が行われた。

4階建ての部屋数が多い市街地のホテルで、Iさんは最上階の端の部屋に、同僚はその隣室に滞在していた。20時にIさんは夕食のために部屋を施錠し、鍵はフロントに預けず、携帯して外出した。40分後ホテルに戻ると、部屋の

< 対策 > ~ 安全管理部より ~

布カバンであろうとスーツケースであろうと、ジッパー式のカバンは鍵をかけていてもジッパー部分をドライバーなどで簡単に壊されたりこじ開けられたりするため、貴重品は入れないほうが賢明です。鍵のしっかりしたスーツケースを使用し、旅券やスマホ、PCといった貴重品は肌身離さず携帯しましょう。

自宅で

わずかな時間に自宅を空けた間に起きた事例

被害報告書

事案名：空き巣  
 発地域：大洋州  
 発生場所：自宅のリビング  
 発生時間帯：14時  
 被害内容：スマートフォン

家の前にあるゴミ捨て場にゴミを捨てに行ったZさん。玄関のドアは閉めたが鍵をかけずに出たところ、戻ってくるとリビングのソファの上に置いてあったスマートフォンがなくなっていた。後日、逮捕された犯人は、「フェンスから敷地内に侵入し、物陰に隠れて家人が外出するまで待っていた」と供述。隙をうかがっていたことがわかった。

< 対策 > ~ 安全管理部より ~

隊員の住居は、玄関の鍵や窓に防犯用鉄格子を設置するなど、ハード面の侵入対策がなされています。しかし、問題はそれを利用する人の心がけです。たとえ自宅の目の前に行く場合でも、必ず鍵をかける癖をつけること。今、海外にいるということを決して忘れてはいけません。日本とは状況が全く違うということをはっきり意識し、確実に鍵をかけ、暑くても寝る際には必ず窓を閉めるなど、基本的なことを実行してください。

道で

バスに乗車する際に起きた事例

被害報告書

事案名：窃盗(ひったくり)  
 発地域：中南米  
 発生場所：市街地のバス停  
 発生時間帯：11時10分～11時30分  
 被害内容：約3000円(現金)、バッグ、財布、クレジットカード2枚、携帯電話2台、鍵、化粧ポーチ

とき、Gさんは背後から走ってきた15歳くらいの男に、手にしていたバッグをひたかれた。犯人は大通りを20メートルほど走り、脇道に逃げ込んだ。盗まれた直後にGさんが「マイ バッグ!」と叫んだため、ほかの隊員が気づき、後を追いかけて、Gさんも追いかけたが見失った。

バッグには日本円で約3000円分の現金とクレジットカード、携帯電話、家の鍵などが入っていたため、近くの隊員の家へ行きクレジットカードを停止し、事務所に連絡。警察に被害届を提出し、家の鍵を交換した。

市街地のバス停で、Gさんはほかの隊員3人と、目的地までバスで行くか徒歩にするか相談し、Gさんだけがバスを選択した。バスに乗車しようとした

< 対策 > ~ 安全管理部より ~

路上歩行中やバス乗車中は周囲を警戒していると思いますが、本事例は犯人からすれば非常に隙があるように見え、ひったくりをしやすい状態だったといえます。バスに乗る際は、バッグを身体の前で持つこと。また、犯人が武器を持った場合など、二次被害につながる可能性があるため、むやみに追いかけることも危険です。





／お話を伺ったのは／



さ さ き か ず ゆ き  
佐々木和之さん

PROFILE

エチオピアで農村自立活動に関わったのち、紛争で成果が崩れ去る事態に直面。英ブラッドフォード大学大学院で平和構築を学ぶ。研究などでルワンダを訪れ、和解や国造りに取り組む人々に出会い、「癒しと和解」プロジェクトを進める。同国のプロテストメント人文・社会科学大学で平和紛争学科設立に尽力し、現在は周辺国や日本からの留学生にも経験を伝えている。



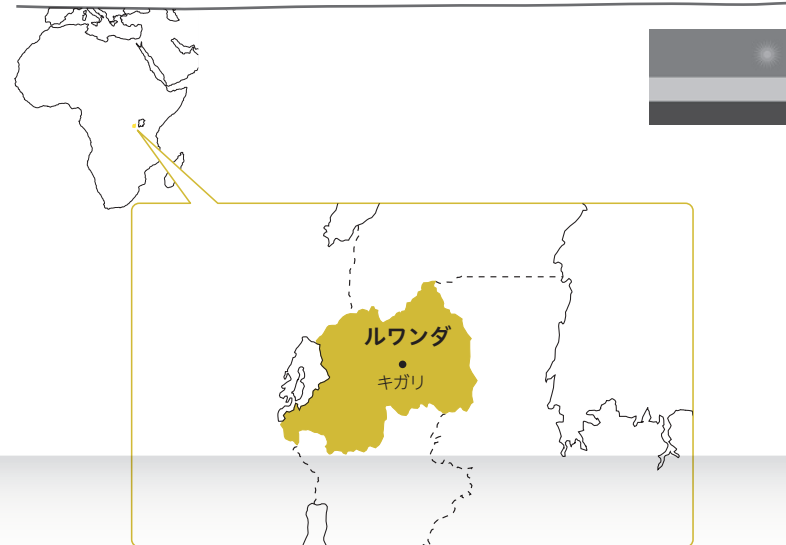
ルワンダは「千の丘の国」とも呼ばれる

# 派遣国の横顔

## 知っていますか？ 派遣地域の歴史とこれから 〈ルワンダ〉

### 大虐殺からの和解と「アフリカの奇跡」を生んだ国

#### ルワンダの基礎知識



#### ルワンダ共和国

面積：2万6300平方キロメートル  
人口：1,263万人(2019年、世界銀行)  
首都：キガリ  
民族：フツ、ツチ、トゥワ(なお、ルワンダは、これらを示す身分証明書を廃止している)  
言語：ルワンダ語、英語、フランス語、スワヒリ語  
宗教：キリスト教(カトリック、プロテスタント)、イスラム教

※2021年3月22日現在  
出典：外務省ホームページ  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/rwanda/>

#### 派遣実績

派遣締結日：1985年6月1日  
派遣締結地：鹿児島  
派遣開始：1987年3月  
再派遣締結日：2005年1月14日  
再派遣締結地：キガリ  
再派遣開始：2005年12月  
派遣隊員総数：337人

※2022年9月30日現在  
出典：国際協力機構(JICA)

## 虐殺ののち、差別を禁止する国へ 痛みを超え、芽生えてきた「深い和解」

1994年、ルワンダで起こった大虐殺では、80万〜100万人もが犠牲になったとされ、世界に衝撃を与えた。民族間の対立が原因と捉えられることもあるが、要因は複雑だ。ルワンダの歴史を振り返る。

ルワンダへの協力隊派遣は1987年、電気設備や体育、空手道などの5人から始まった。その後、技術教育、職業訓練、自動車整備などの隊員が派遣されたが、治安悪化のため、93年7月までに全員が帰国した。94年の大虐殺(ジェノサイド)では100日間に80万〜100万人が殺されたといわれる。協力隊の派遣は2005年に再開され、コミュニティ開発や公衆衛生、観光など幅広い職種で活動が続けられている。

この国でなぜジェノサイドは起きたのか。ルワンダには15世紀ごろ、王国が建国された。ツチは王国の支配階層だったが、ツチとフツは同じ言葉話し、民族的な違いはいままだ。1890年にドイツの保護領となり、1916年以降、ベルギーの支配下に置かれた。ジェノサイド後の「癒しと和解」に取り組む佐々木和之さんによれば、

ベルギーは、「民族」登録制度を導入し、ツチ以外から社会的地位を奪ったという。

62年の独立前後からフツの力が強まり、多くのツチの人々が隣国に逃れ、フツ系の政権が続いた。90年にツチ難民の第2世代を中核とする勢力がウガンダから侵入し、内戦に。94年4月にフツの大統領が乗った飛行機が撃墜されると、フツ過激派が主導するツチへのジェノサイドが始まった。

佐々木さんは「軍事的な圧迫に加え、主要輸出品であるコーヒーと茶の国際価格暴落による経済危機や、内戦からの民主化要求の高まりにより窮地に立たされたフツの支配者層が、『共通の敵であるツチ』と戦うことがフツの義務であるとし、一般市民を動員してツチへの無差別殺戮を実施した」と指摘する。「融和を唱えるフツの穏健派は裏切り者として真っ先に殺害された。戦争に負ければ、二級市民



佐々木さんと養豚協同組合の人々

に戻ってしまうという権力側のプロパガンダが、強い説得力を持ってしまう」という。

戦争で暴力が正当化され、集団心理のなかで自分だけ違う行動が取れなくなった。「同じことは世界各地の戦争で起きた。加えて植民地支配がエスニック集団間の分断を深め、ジェノサイドの背景となった。伝統的な民族間の憎しみが積もり積もってジェノサイドが起きたわけではない」と強調する。

94年7月、新政権が成立。「その後、差別は禁止され、人々が平和的に共存する段階に達している」。被害者家族と加害者家族が共に洋裁に取り組み協同組合では、両者が一緒に育てた花をジェノサイド犠牲者の追悼式で共に供えた。その後、加害者家族の女性の苦しみにも共感した被害女性たちが、加害者である夫の面会に行うこともあった。そんな「深い和解」も生まれている。



おおえさとか  
大江里佳さん

コミュニティ開発/2014年度1次隊  
コミュニティ開発/2016年度9次隊・愛知県出身

PROFILE

大学時代、国際学科でアフリカの課題や文化を学び、研修でルワンダを2回訪れる。高校時代にダンススタジオに通い始め、大学でも勉強の傍ら、ダンスに打ち込む。企業に就職したが、アフリカに関わり続けたいとの思いから、協力隊に応募。現在、ルワンダに在住。コンサルティングや通訳、ガイドなどを行う。



村で井戸の管理・運営について説明する大江さん(中央)



現地の中学校を訪問する田中さん(右端)

たなかえつこ  
田中悦子(旧姓・加藤)さん

ソーシャルワーカー/2005年度3次隊、  
ソーシャルワーカー/2008年度9次隊・愛知県出身

PROFILE

大学院修了後、企業の健康管理室でのカウンセリングなどを行う。学生時代の同級生が協力隊に応募したことをきっかけに、ソーシャルワーカーなどの職種があることを知り、応募。2年間の派遣後、再派遣で短期活動もした。帰国後、就労移行支援施設「仕事ノアル暮らし」を設立し、代表理事に。臨床心理士。



課題に向き合い  
共に未来を  
つくる

路上の子どもも支援から  
生活を支える工房へ

2000年代に入っても、ルワンダの傷痕は、まだ生々しかった。その頃現地に入った佐々木和之さんは、「ジェノサイドの記念施設に行くと、おろろと歩く人もいた」と話す。和解や国造りが進むなか、06年、ソーシャルワーカーとして、派遣されたのが、田中(旧姓・加藤)悦子さんだ。配属先は、ベルギーのNGOが運営していた首都・キガリのストリートチルドレンの保護センター。路上生活を送る子どもたちに教育や訓練を行い、社会に復帰させる活動をしていた。保護活動に同行するなどし、適切なカウンセリングの方法などを伝えるという

を語らなかつたが、被害の多かつたツチ族なので、「つらい体験をしたのだと思います」。衝撃的なこともあった。いつも親しそうに話している大家の友人が酒を飲んだあと、田中さんにこう言った。「あいつ、臭うだろう」。その友人はフツだと思われた。

しかし、そうしたことは例外的で、ルワンダは人と人との助け合いにあふれていた。「あんな大変な思いをした人が笑って生活をしている。その姿に希望を感じました」。田中さん自身、人の優しさに触れたことを覚えている。派遣当初、田中さんが保護活動に同行するかどうかで話し合いが紛糾したときのこと。田中さんは「ルワンダのためと思って来たの

のが要請の内容だった。

ストリートチルドレンが多くいた場所の一つが市場だ。店から車まで野菜などを運び、1回、15円程度の運び賃を受け取る。「1日働いて、150円稼げるかどうかだったと思う」と田中さん。一番安い食堂で1食約50円。生活は厳しく、家族がいればなおさらだ。なかには、親の暴力や大麻の乱用のため、家庭での生活が難しい子もいたが、貧困のため路上で生活費を稼ぐ子が多かった。しばらくの間、路上生活でお金を稼いで、地方へ戻る子どももいた。ジェノサイドや内戦の前後を通じ、貧困と格差はルワンダの課題だった。

保護にあたるスタッフが、ソーシャルワークやカウンセリングを学ぶ仕組みはなかった。「個人の秘密を他人に漏らさないなど、職業上、当たり前と思えることさえ、理解されていませんでした」と田中さん。ある子の虐待被害を、スタッフが皆の前で話しそうになったときは、「わあーと走って行って、口を押さえました。私の慌てぶりを見て、やつてはいけないことだと伝わったと思います」。

田中さんは子どもたちの授業も担当するようになった。理科の実験として糸電話などをやると大好評だったが、「貧困家庭でも、収入さえあれば路上で働く必要はなく、学校にも通えるのに」という思いが募った。その頃、牛に、自分が原因でもめている」といったたまれなくなり、会議中に涙がハラハラと流れた。見かねた職員の一人在別室に連れて行ってくれ、その優しさに、また涙があふれたという。

成長から取り残された地方  
井戸管理の意識を転換

その後、ルワンダは教育に力を入れ、情報通信技術(ICT)分野の成長は「奇跡」ともいわれた。しかし、地方の発展はまだ遠い道のりだった。暮らしの基盤となる安全な水へのアクセスが課題として残っている地域もあった。そうしたなか、14年にコミュニティ開発の職種で派遣され、「水の防衛隊」と



理科実験で行った糸電話

の角をアクセサリなどに加工する職業訓練が施設内で行われていた。青年たちは、技術は身につけられたが、技術を生かす場所がなかった。そこで田中さんは、工房を開くことを思い立つ。日本の団体から資金援助を受け、施設の同僚、職業訓練講師のコンゴ人と共に、派遣から約1年後、工房を開設した。土産物屋やホテル、チャリティイベントなどで製品を販売すると、かなりの収入になった。

当時はジェノサイドから10年余りがたっていたが、傷の深さを感じさせられる経験もあった。毎年4月、ルワンダでは記憶と追悼のための式典が行われる。その時期、借りていた家の大家は決まって体調を崩した。大家は詳細して水・衛生の課題に取り組んだのが、大江里佳さんだ。

東部県カヨンザ郡の町役場で、農業や水・衛生を担当する部署に配属され、手押し井戸(ハンドポンプ)の維持管理に力を入れた。ハンドポンプが壊れたまま放置されていることもあったためだ。村ごとに井戸の維持管理にあたる水委員会があり、それぞれ6人の住民が無報酬で任にあっていた。以前の隊員が作った「活動マニュアル」はあったが、機能していなかった。「なんで動かないんだろう」と、大江さんは聞き取りを重ねた。

井戸が壊れたときに、簡単な修理をできる人はいた。問題は、交換部品の購入費用だった。パッキンのような少

活動の舞台裏

ルワンダのダンスは表現力が魅力

高校時代からダンスを続けてきた大江里佳さんはルワンダで、いくつものスタイルのダンスに出会い、その表現力に魅了された。

最初に出会ったのは伝統的なダンス。結婚式や式典などの祝いの席で披露され、歌や手拍子、太鼓に合わせて踊る。男性にはライオンをイメージしたかぶり物があり、女性の踊りには牛の角を表す腕の振り付けがよく見られる。派遣2年目、首都キガリで開催されたダンスイベントで、アフロビートを取り入れた現代的な「アフロダンス」と出会った。当時、日本ではほとんど知られていなかったが、ストリートダンスが好きだった大江さんの心を捉えた。



ルワンダにてダンスイベントに参加して踊る大江さん

一口にアフロダンスといっても、国・地域別の特徴があり、伝統的なダンスを発展させたものもあったが、ルワンダのダンスは現代化されても、「割とゆったりして、気持ちを入れて踊る感じ」と大江さん。

「日本の場合は、練習もしっかりするし、みんなの動きもそろっています。ルワンダのダンスは、みんなの動きがそろっているかというと、そうではありません。でも、瞬時、瞬時の瞬発力や表現力はすごいですし、それを伝えられるダンサーがいます。私は趣味としてダンスに関わってきましたが、彼らがルワンダのダンス業界を盛り上げていけるように、支えていきたいと考えています」



知っていますか？  
派遣地域の歴史とこれから  
(ルワンダ)



コーヒーツーリズムのなかで、観光客は伝統的な焙煎方法を体験できる

手作業でコーヒー豆を選別する様子

たなかしょう  
田中翔さん

コミュニティ開発/2021年度7次隊・京都府出身

PROFILE

コーヒーの品質向上や販路拡大のため派遣中。大学卒業後、ボリビアのツアー会社勤務を経て、協力隊に応募。派遣が決まり、訓練も修了したあと、コロナ禍のため1年半待機。派遣国が変わり、活動内容もコメ生産の支援から変更になったが、日本のカフェでの勤務経験もあったことから、嬉しかったという。



活動の舞台裏

ペットはニワトリ

ルワンダの首都・キガリから離れた西部県に派遣中の田中翔さんは、現在、一軒家に一人で住んでいる。寂しさを紛らわせてくれるのが、ペットのチャコとコケコ。いずれもメスのニワトリだ。

初めは、犬か猫を飼いたかったが、狂犬病の心配もあることから断念。「ニワトリなら卵も産んでくれるのではないか」と考えた。

知り合いに頼んで、よく卵を産むという1歳前後の「2人」を、2,000円しない程度の値段で購入し、鶏小屋も作ってもらった。



田中さんが飼育するニワトリ、チャコとコケコ

飼い始めてみると、卵を産む時期と産まない時期が、2週間ごとにやって来た。産む時期は、1日に1個、どちらかが卵を産む。その後は産まない時期が2週間続き、また産卵期になる。

ニワトリとの暮らしで生活の潤いと卵は得られたが、誤算もあった。「エサには、家畜用飼料を買ってきて食べさせています。卵は市場で買えば1個20円ほどで、一方のエサ代は月に300円。月平均15個の卵を産んでくればちょうど収支が釣り合うのですが、最近、エサが1キロ70円近くに値上がりし、完全に赤字になってしまいました」。それでも、田中さんは、ペットとの生活を楽しんでいる。

ニワトリは年老いて卵を産まなくなると、通常は食用にされるが、「愛着があるので、とても食べられません」。

額のものでも部品代が集まらない。そこには、ルワンダ人の気質も影響していた。「お金を出しても本当に直してもらえないのか、はつきりしない。プラズでもマイナスでも、自分だけがやることをすごく嫌がる。なんで払わないのと聞くと、だってみんな払わないから、と言います」と大江さんは振り返る。

そこで大江さんは、村全体でお金を出し合う合意をし、水委員会が一軒一軒を回ってお金を集めるようにした。払った人にはレシートを渡し、レシートを見せた人だけが水をくめる仕組みだ。委員たちのやる気も上がった。大江さんのお別れ会で、リーダーの一人が「なぜ井戸を直さないといけないんだと思っていたが、自分たちの井戸だから、自分たちで直さないといけないと考えるようになった」と話したときは、とても嬉しかったという。任地は、「住民が自分たちで井戸を直せる郡」として知られるようになっていった。

活動中、人々が助け合う姿に感じましたという大江さん。「『お金を貸して』と言われると、返ってこないとかわかっていても貸す。自分に余裕がなくても、物乞いの人にお金を渡す。逆に自分が困ったら、『食べられないから恵んでくれ』と周囲に助けを求め、周囲も当たり前のように助ける。それらが生活に染みついていると感じました」。仲間

田中さんはスタッフと協力してこれを増やしていきたいという。

「組合が農民からコーヒーの実を買取るときに資金が必要になります。銀行から資金を借りるのも大変なので、ツアーの収益をその資金にもあてたいと考えています」

悩みもある。一つは、組合にまとまった量のコーヒー豆を焙煎できる機械がないこと。輸出時は生豆を送るが、地元での観光客向けの試飲・販売には焙煎した豆が必要なのだ。そのため、車で4時間かけて首都キガリまで行き、焙煎している。高価な焙煎機の購入はすぐには難しく、「当面は販売と焙煎の予定をきちんと組んで対応したい」。

もう一つ、「時間的な感覚の違い」

もあるという。「10人、20人のツアーが来るとわかっていながら、あらかじめ試飲の準備をしてほしい。でも、現地の人は、実際に到着してから、『わーっ、20人も来たぞ』となる。とはいえ、彼らには彼らなりのスピードがあるので、何事も柔軟にと心がけています」。

将来に向け、若手コーヒー農家の育成も重要だ。加工作業にあたる若者の多くは、収穫期に日雇いで働いている。家が農家でも、彼ら自身の農地はなく、コーヒーの苗木を買う資金もない。「彼ら自身も土地の購入資金を積み立てていますが、不十分。組合の資金を増やし、若手支援を拡大して、コーヒー産業を盛り上げたいです」。

そこでも大江さんは、村全体でお金を出し合う合意をし、水委員会が一軒一軒を回ってお金を集めるようにした。払った人にはレシートを渡し、レシートを見せた人だけが水をくめる仕組みだ。委員たちのやる気も上がった。大江さんのお別れ会で、リーダーの一人が「なぜ井戸を直さないといけないんだと思っていたが、自分たちの井戸だから、自分たちで直さないといけないと考えるようになった」と話したときは、とても嬉しかったという。任地は、「住民が自分たちで井戸を直せる郡」として知られるようになっていった。

活動中、人々が助け合う姿に感じましたという大江さん。「『お金を貸して』と言われると、返ってこないとかわかっていても貸す。自分に余裕がなくても、物乞いの人にお金を渡す。逆に自分が困ったら、『食べられないから恵んでくれ』と周囲に助けを求め、周囲も当たり前のように助ける。それらが生活に染みついていると感じました」。仲間

間同士で激しく言い争うことがあっても、それで気まずくなることはなかったという。

ルワンダで活動した二人の元隊員は、同国の人々のため、今も共に歩んでいる。田中さんは帰国後、愛知県で精神障害者らの就労移行支援事業所を運営、事業所での作業の一環として、ルワンダで立ち上げた工房の製品を仕入れ、アクセサリーなどに再加工している。

大江さんは現地のダンサーと結婚し、現在も同国に住んでおり、夫やダンサー仲間と共にダンススタジオの運営に携わっている。「ダンスを通じて子どもたちを支えていきたいのです。家庭に余裕のない子は、自己肯定感が低く、良くない誘惑がたくさんあります。でも、ダンスをしているときは、すごく一生懸命なんです」。



村の衛生クラブの活動でマッピングを行う大江さん

コーヒーの加工に変革を  
将来は日本への輸出も

22年でジェノサイドから28年たつ。しかし、貧困や、都市と地方の格差は今もルワンダの抱える課題であり、その改善を目指す隊員たちの活動も続いている。21年10月からコーヒー農家の支援に取り組んでいる現役隊員の田中翔さんの活動もその一つだ。任地はコーヒー栽培の盛んな西部カロンギ郡。日本という市町村の役所・役場にあたる組織に配属され、コーヒー農家が立ち上げたコパカキ農業組合の支援にあたりたい。

力を入れているのが、マーケティングだ。コパカキの近くには欧米からの観光客も訪れるキブ湖があり、周辺にはいくつものホテルがある。組合のマーケティング担当スタッフと共に、コーヒー豆を持ってこうしたホテルを訪問し、「二度、飲んでみてください」と声をかける。反応は上々だ。

地域では、JICAの「コーヒーバリューチェーン強化振興プロジェクト」が進められ、専門家も現地に入っている。そのため良質のコーヒーを育てる技術はある。しかし、世界のコーヒー市場では、コーヒーの果肉を除去せずに乾燥させてフルーティーな味にしたり、発酵させるときに空気に触れさせたり触れさせなかったりと、さま



# 専門家に聞きました！ 失敗に学ぶ 現地で役立つ人間関係のコツ



今月の教える人 **志和地弘信**さん

ネパール／野菜／1985年度3次隊、SV／ネパール／園芸作物／1989年度0次隊・鹿児島県出身

1960年、鹿児島県生まれ。東京農業大学農学部卒業後、85年に協力隊に参加。帰国後鹿児島大学大学院へ進学（農学博士）。2004年より東京農業大学勤務。現在、学校法人東京農業大学常務理事、同大学大学院国際食料農業科学研究科国際農業開発学専攻指導教授、同大学国際食料情報学部国際農業開発学科教授。

今月の  
お悩み

今月のテーマ：課題だらけで手に負えない

現場で要請と違うお願いをされたり、  
要請外の課題が多く、  
手のつけどころに迷います

（野菜栽培／女性）

農家の収入向上のために野菜栽培の指導で派遣されました。小規模農家は設備投資する元手がなく、農作物は天候の影響も受けるので、収穫量が安定しません。子どもたちが畑に出てい

るのも学校を休んでいるのが気になります。農家の人たちは気さくでいい人ばかりですが、要請内容以外の農作物を育てたいと言われることもあり、課題が多過ぎて悩みます。

志和地先生  
からの  
アドバイス

## 周囲を巻き込み、収入向上の糸口を見つければ、道筋は見えます

今回の相談者のように農家の収入向上のために野菜の適切な栽培方法を指導するといった要請で派遣されても、収入が増加しない原因は栽培方法だけではないでしょうから、現場を知れば知るほど、さまざまな課題が目についてしまうのも無理はないと思います。

児童労働でいえば、先進国側のモラルからすれば良くないことです。しかし現場に行けば子どもも手伝うのは当たり前といった風潮がある。やめさせるためにも収入を増やしたいところですが、収穫までに時間がかかる農作物もありますから、栽培方法を見直したからといってすぐに収入向上に結びつくとは限りません。

そこで短期間で育ちお金になる農作物も栽培してもらおうと市場へ売れ筋を調べに行くところ。例えば市場でトウモロコシがよく売っていたからといって、トウモロコシの栽培を提案するのは早計です。トウモロコシ

シは干ばつの多い地域だと失敗するリスクが大きいからです。干ばつを考慮するならば、ひえや雑穀が育ちやすいものの、ひえや雑穀は農家が育てたい農作物かといった問題や、自分の専門外だったといった問題も出てくるかもしれません。

確かに課題が山積みで混乱しますよね。このお悩みに対する私からのアドバイスは、「マーケティングの活用」と「人に頼る」ことです。

農家のニーズを聞いて、新たにトマトを栽培することになったとします。普通に作って売るとよりも相場より高い価格で売ることができれば収入が増えますから、高く売っているケースの要因を探ります。収穫時期や品種など、的確なアドバイスができれば収入向上の道筋が見えてきます。このとき栽培する農作物が専門外なら、現地の人に教わるというでしょう。

既に栽培している農作物の価値を上げる方法もあります。米

を栽培していて、例えば、日本だと茶碗1杯分の米の売り値が10円だったとします。しかし同じ量の米を炊いておにぎりにしたら、100円でも買う人がいるかもしれません。さらに厳選した海苔や塩をつけて具材を入れることで300円にすることもできます。マーケティングが専門外なら、同じ地域のほかの職種の隊員と共同することで、新しいアイデアが出てくるかもしれません。

要請内容と農家のニーズは必ずしも合致しないと思ったほうがいいと思います。地域ではAという農作物を産業の要にしていくと「BやCの野菜を育ててみたい。タネや苗は手に入らないか」などと相談を持ちかけられることがあります。

私も米、麦、野菜の栽培でネパールへ派遣されたものの、農家が希望したコーヒーやカルダモンの苗木の普及も手伝いました。専門外なので現地でコーヒ

ーを育てている方に苗木の増やし方を教わり、カルダモンはカウターパートから植え方を教えてもらって対応しました。

ミカンの生産技術の改善をしたときにも、農家からはバナナやコシヨウの苗がほしいと言われました。苗を手に入れ、「うまく育ったら、周囲の農家にも苗を分けてあげてください」と渡し、栽培は農家に任せました。もともとの要請がなく、仕事は増えましたが、こちらができることはしよつと熱意を見せて行動に移したことで、農家との信頼関係が深まりました。

どの職種でも、相手のニーズを無視した押しつけの支援では住民参加型になりませんし、定着しません。ですから要請と違うことでも、できることはやっただろうがいいと私は思います。課題が山積していても対象者とよく話し合い、一人で解決しなければと気負わず、人を巻き込みながら活動してみてください。





# この職種の 先輩隊員に注目!

～現場で見つけた仕事図鑑

#0016

## 「理科教育」

分類：人的資源

派遣中：23人(累計:258人)

類似職種：数学教育、小学校教育、環境教育

※人数は2022年9月末現在

### CASE 1



山口孝太郎さん

パプアニューギニア/2014年度1次隊・東京都出身

#### PROFILE

大学は理学部で教員免許取得。新卒で協力隊に。帰国後は岩手県釜石市の任期付職員として震災の復興事業に携わる。現在、釜石市内の和菓子メーカーに勤務する傍ら、フリースクール設立を目指している。

配属先：セントジョセフ・カバレオ・デモンストレーション小学校  
要請内容：7～8学年の理科・数学の授業の実施、身近な素材を使った理科実験の紹介・普及、同僚教師の教科知識や指導法への助言、ほかの隊員と連携した授業研究会などの実施。

### CASE 2



田中瑛子さん

ペルー/2018年度2次隊・大阪府出身

#### PROFILE

小学生の頃から協力隊に憧れる。大学・大学院で宇宙推進工学を学び、機械メーカーに2年半勤務後、協力隊に参加。帰国後は建設会社に入社し、1年間のベトナム駐在を経て、現在は環境省に出向中。

配属先：ペルー国立地球物理研究所(IGP)  
要請内容：研究所内のプラネタリウムで、同僚と共にプラネタリウムの投影や子どもたちがなじみやすいテーマでの科学実験を企画・実施し、科学の普及に協力する。

「理科教育」隊員は、主に小・中・高校の教員として、①理科の楽しさを伝え、生徒の興味を引き出す授業、②入手可能な材料や器具を使った実験や、教材・教具の作製、③現地の教員との授業研究や研修といった活動に従事する。また、教員養成校の教員として、教員を目指す学生に授業を行ったり、教育行政機関に派遣され、学校への巡回指導を行うこともある。科学館など学校以外の機関への派遣もある。理系学部レベルの専門知識と中学・高校レベルの理科を教える力、教具や器具不足でも創意工夫する柔軟性が求められる。

#### CASE 1 身近なもので実験し、 考える力をつける理科を

教員を目指すなかで国際的な視野を

年(高校生相当)入試の対策問題集の作成もした。

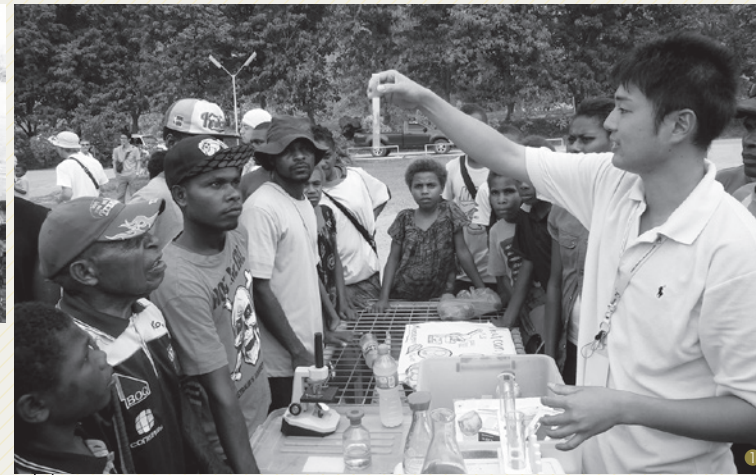
一方、職場に理科専任教師がいない状況下でマンパワーとしての活動が中心になったが、ほかのアプローチもあったのかもしれないと振り返る。

「『よく働くなあ』と同僚教師たちに言われていました。私の授業をよく見に来てくれましたが、同僚たちは放課後すぐ帰ってしまうため、指導や研修をする時間はありませんでした。もっと根気強く働きかければよかったとも思います」

#### CASE 2 子どもがプラネタリウムに 親しむ環境づくり

大学院で宇宙推進工学を研究した田中瑛子さん。就職後、協力隊参加を考へるも、鉱工業分野の職種は3年以上の実務経験を必要とするものが多かった。そんなとき、子どもに天文学や科学の面白さを伝えるためにプラネタリウムの投影や科学実験を行うという、資格不要の要請を知って応募した。

ペルーでは2008年に国立地球物理研究所(IGP)内にできたムツミ・イシツカプラネタリウム(※)が国内唯



①感染症対策隊員と共に市場や病院で大人向けの理科実験を行い、シラミなどの健康被害の啓発も行った  
②校内に畑を作って育てた野菜  
③投影前に子どもたちにプラネタリウムについて説明する田中さん



広げたいと、新卒で協力隊に参加した山口孝太郎さん。パプアニューギニアの地方にある小学校で7、8年生(日本の中学1、2年相当)の理科と数学を教えた。山口さんは3代目の隊員のため配属先もボランティアと働くことに慣れており、多いときには週に20コマの授業を担当して積極的に活動した。

「生徒たちは教科書を持っておらず、授業は板書をノートに書き写すことが中心でした。理科が日常生活の物事につながっていることを理解し、考える力がつくよう、身近な物で実験を行いました」

「濃い」「薄い」を知るために濃縮還元ジュースを水で薄めて果汁100%ジュースを作る計算をしたり、身近な物質の酸性・アルカリ性を調べる実験では、指示薬の代わりにムラサキイモの煮汁を使用し、酸性の試薬としてレモ

ンのプラネタリウムだ。田中さんが赴任してみると、一般にプラネタリウムへのなじみは薄く、初めて訪れる人が大半だった。他方、要請時点より来館者が増えて忙しくなっており、平日は小学校向け、日曜日には一般客向けに投影していた。

「真つ暗にして投影することを知らないために学校の先生でも照明が消えたことに慌てて騒いだり、児童たちは機械を触ろうとしたりするので驚きました。教育という以前に、まずは来館者に事故なく最後まで見てもらえるよう、投影前にプラネタリウムについて、テーパークのキャストのように楽しく説明することが私の仕事のひとつでした」

主な利用者は児童や生徒だが、IGPは権威ある研究機関。併設の施設もサービスマンではないとの考えから、プラネタリウムの存在を知らせる看板も、受付の料金表示さえもなかった。そこで、田中さんは館内に案内板を設置した。来館者がスムーズに移動できるようにになったと感じたIGPは、外にも公式の看板を設置してくれた。

また、来館者専用のトイレがなかったため、田中さんは設置をIGPに働きか

ン汁を、アルカリ性の試薬には石灰水を用いて色の変化を見せたりした。

赴任から半年後、山口さんは、公用語の英語で行われる授業を理解できない生徒がいることに気づいた。

「例えば、小腸の表面にある『微絨毛』という単語はなじみがなく聞き流してしまう。簡単な英語で表現すると共に、現地のピジン語で補足説明しました」

さらに、よりよく理解してもらうため、色違いの100個の風船を膨らませ、風船の色でヒダと突起などを表現、栄養を吸収する仕組みを説明した。

山口さんは放課後も精力的に活動した。生徒たちについて集落に遊びに行ったり、校内で畑作りをする同僚に教わり、自らも野菜を栽培。生育を生徒たちに観察させた。また、ほかの理科教育隊員と協働し中等学校(日本の中学3

けた。設置後はトイレの外壁に宇宙飛行士のイラストを描き、同じ地域の青少年活動隊員が活動する児童養護施設の児童に色を塗ってもらった計画も進めた。

「来館する児童らがプラネタリウムに親しむ環境づくりが活動の中心でした」

回数は少ないながら、実験やイベントも実施した。プラズマを発生させたガラスボールに触って放電現象を観察する体験や、曇りがちなリマの数少ない晴れの日を狙った天体観測会を実施した。

「望遠鏡で満月を見た児童たちが興奮して踊ったり、職場から離れた街中で『プラネタリウムのお姉さん!』と何カ月も前に来てくれた女の子が声をかけてくれたときは嬉しかったです」

日本人客の誘致を狙い、インカ帝国の星座をテーマに日本語版も含めた映像を制作していたが、コロナ禍で休館となり、田中さんは一時帰国中に任期が終了した。

「今も休館中で、同僚たちはオンラインでプラネタリウム講座を開いています。トイレに描いた宇宙飛行士を登場させてくれ、私が『児童や生徒たちに楽しんでほしい』と言っていたことが少しは伝わったと感じます」

#### 活動の基本

理科への興味を引き出すために身近な材料で実験をしたり、学ぶための環境づくりを行うことも

※ムツミ・イシツカプラネタリウム=ペルーでの天文学の普及を目的に、日本の文化無償資金協力で設立。ペルーの天文学研究に貢献した、故・石塚 睦博士の名前が冠されている。



# みんなの教材づくり & アクティビティ

海外協力隊OVが派遣国の活動や生活で実践した、お役立ちアイデアをご紹介します。

コロナ禍では数学の問題を現地へ送付

タンザニアで1年2カ月活動後、新型コロナウイルス感染症の影響で帰国を余儀なくされ、残りの10カ月は日本から活動することになった中平さん。生徒が自己学習できるように、問題や模擬テストを作成し、月に1度、タンザニアの同僚に送付しました。

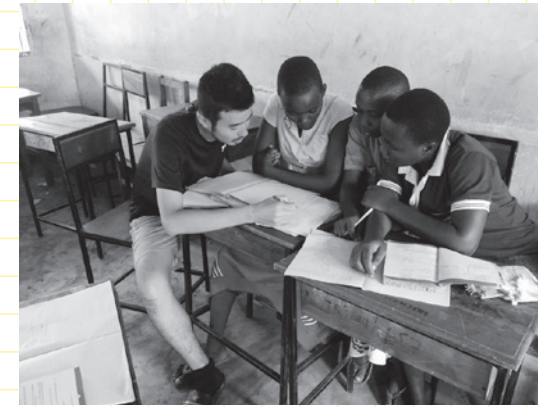
「工夫したのは、細かく解説を入れること。口頭で補足説明できない分、図や式の展開図を書いて、答えにたどり着くまでのプロセスを入れるようにしました」

顔の見えないなかでの活動でしたが、あるとき生徒から「問題を作ってくれてありがとう」というメールが届き、大いに励まされました。



今月の先生  
なかひら きたし  
中平 賢さん

(タンザニア/数学教育/2018年度3次隊・東京都出身)  
2019年1月に赴任して活動を始めたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で20年3月に帰国。10カ月は日本で活動。現在は日本語パートナーズとしてマレーシアで活動中。



現地にいるときは、質問に来る生徒たちに対応できたが、帰国するとできなくなったため、送る問題には、よりわかりやすい解説をつけた

## Round off (四捨五入)

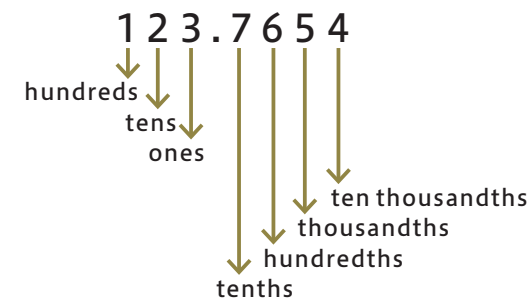
この数字について、以下の指示に従い、四捨五入をなさい。

- i) ones (1の位) まで求めなさい
- ii) tenths (小数第1位) まで求めなさい
- iii) hundredths (小数第2位) まで求めなさい

という問題。四捨五入の基本を説明し、手順を解説していきます。

基本ルール

Memorize the name of place.



問題文

Round these numbers below 3.173

- i) Correct to ones
- ii) Correct to tenths
- iii) Correct to hundredths

解説

i) Correct to ones

Step1: write the answer until ones. → 3.173

Step2: check the number in the next place. '1'

Step3: 1 < 5... So we don't change the number in ones.

答え

The answer is 3

解説

ii) Correct to tenths

Step1: write the answer until tenths. → 3.173

Step2: check the number in the next place. '7'

Step3: 7 > 5... So we change the number in tenths '1' into '2'.

答え

The answer is 3.2

解説

iii) Correct to hundredths

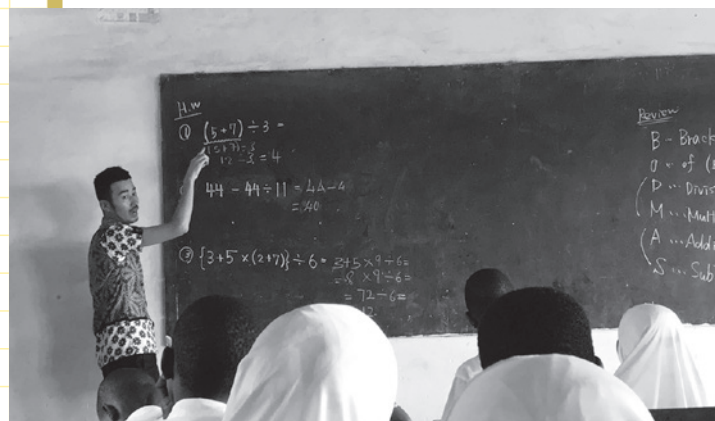
Step1: write the answer until hundredths. → 3.173

Step2: check the number in the next place. '3'

Step3: 3 < 5... So we don't change the number in hundredths.

答え

The answer is 3.17



現地での授業はすべて英語。現地のスワヒリ語を交えながら説明していた

## Circle (円)

「同一円周上に、点A、B、Cがあります。角度BÔC=Xが110度であった場合、BÂCの角度は何度か」という問題です。「Xの角度はBÂCの角度の2倍になる」という基本的なルールを押さえるところから始めます。

基本ルール

From the theorem of circle.  
The angle of a circumference × 2  
= the centre angle of a circle

If they are subtended by same arc or chord... we can use this theorem!

解説

From the theorem of circle

$$\hat{BAC} \times 2 = \hat{BOC}$$

$$\text{But } \hat{BOC} = 110^\circ$$

$$\hat{BAC} \times 2 = 110^\circ$$

$$\frac{\hat{BAC} \times 2}{2} = \frac{110^\circ}{2}$$

$$\hat{BAC} = 55^\circ$$

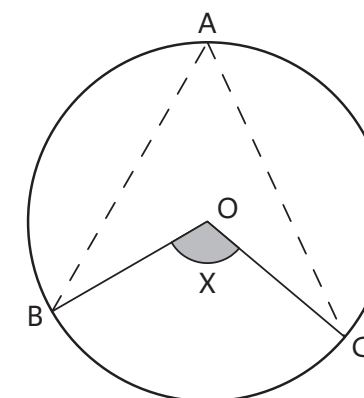
答え

$$\hat{BAC} = \underline{55^\circ}$$

BÂC and BÔC  
Both angles are subtended by BC.  
So we can use this theorem!!

問題文

In the figure 1.  
A, B and C lie on the circle.  
If the angle X (BÔC) is 110°,  
find the angle BÂC



一つ一つ式を展開していく

Xの角度はBÂCの2倍



# シュエカツ記

帰国後、内定までの  
就職活動の方法を聞きました。

ハンドボールを通じて  
派遣国とつながりたい  
という思いが  
仕事選びの起点です



今月の先輩

森 みつき (旧姓: 宇佐美) さん Mitsuki Mori  
エチオピア/体育/  
2017年度1次隊・神奈川県出身

就職先:  
わたさく  
渡作株式会社



事業概要: スポーツアパレル、ワークユニフォーム、グッズなどを製造・販売。国内外に自社生産工場を持ち、量産からオーダーメイドの小ロット生産まで対応。他社ブランド製品の設計・製造も受託している。

森 みつきの略歴:

- 1989年 神奈川県生まれ
- 2012年3月 日本体育大学卒業
- 2012年4月 私立高校に体育教師として入職
- 2016年3月 私立高校を退職
- 2017年7月 青年海外協力隊員としてエチオピアに赴任
- 2019年8月 帰国
- 2019年9月 渡作株式会社に入社

JICA 海外協力隊ウェブサイト

「帰国隊員の進路開拓についての相談受付」

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/counselor/](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/)

※カウンセラー/相談役により対応可能な日が異なりますので、あらかじめ電話またはメールでのご連絡をお願いします。



高校時代から部活動でハンドボールの選手として活躍し、大学卒業後は高校の体育教師になった森みつきさん。協力隊に興味を持ったのは、体育隊員としてアフリカに赴任していた友人を旅行で訪ねた際に、のびのびと運動している子どもたちの姿を目にしたことがきっかけだった。その後、ハンドボール指導の要請があることを知って協力隊に応募し、エチオピアに赴任することになった。

当初、2019年の任期終了後は東京五輪に関わりながら、その後のことを決めようと考えていたという。しかし、エチオピアでハンドボールと関わ

## 1 協力隊の活動 2017年7月～2019年8月



任地のハンドボール練習場は、コンクリートがひび割れていて、釘が落ちていることもあり、けがの危険もつきまとう。そんな環境でも、生徒たちは目を輝かせてハンドボールを楽しんでいた

エチオピアではスポーツを通じた子どもたちの育成に力を入れており、各地に市や町が運営するスポーツクラブがあります。私は北部に位置するアクスム市青少年スポーツ事務所に所属し、男女のユース世代 (U13、U15) の選手たちにハンドボールの指導を行いました。要請内容は3人のコーチへの指導がメインでしたが、実際にハンドボール経験のあるコーチは、ボランティアで指導している大学生1人だけだったため、私も子どもたちのなかに入って一緒にプレーしながら指導を行いました。チームの目標は、毎年8月に開催される全国大会で成果を出すことです。任期を1か月延長して参加した2019年の大会では、男女共メダルを取ることができました。コーチ2人が小学校の教員だったことが縁で、指導がない午前中には、小学校の体育授業に参加。日本のラジオ体操を導入したり、運動だけがしたときの応急処置の仕方を、紙芝居にして教えたりしました。

## 2 日本の団体・企業にメール 2018年春ごろ

ハンドボールを通じてエチオピアと日本をつなぐ仕事にはどのようなものがあるのか。将来のヒントにしたいと、日本のハンドボール協会や、スポーツウェアのアパレル会社、出版社など、ハンドボールと関わりのある団体や企業に相談のメールを送りました。そのなかで、渡作株式会社から、ユニフォームを提供できると返事をもらいました。

## 3 書類提出 2019年2月ごろ

2019年3月に家族の都合で1週間ほど一時帰国する機会があり、ユニフォームを提供していただいたお礼を兼ねて会社を訪問したいと、メールで連絡をしました。すると「気持ちが変わっていないければ、面接に来ませんか」と返事があり、すぐに面接を受けることを決めてエチオピアからメールで履歴書を送りました。履歴書の志望動機には、ハンドボールに関わる仕事がしたいこと、協力隊の活動経験から、スポーツウェアを通じて誰かを幸せにしたいという思いを書いたと記憶しています。

## 4 一時帰国で会社訪問&面接 2019年3月

面接といえる面接は、一時帰国の際にハンドボールウェアを扱う Impal 事業部の部長と会ったのが、最初で最後です。このときは、エチオピアでの生活と、前職で教員として働いていたときのことを聞かれました。私自身、会社の事業内容についてまだ不勉強だったので、部長からはアパレルの事業についての細かい説明がありました。そして、任期が終わる8月に帰国したら働き始めることが、このときに決まりました。

2019年9月 ▶ 入社

るなかで、森さんの胸中には「ハンドボールを通じて日本とエチオピアをつなきたい」という思いが生まれていった。そこで森さんが行ったのが、ハンドボールに関連する日本の団体や企業に片っ端からメールを送り、その思いをぶつけることだった。

「ハンドボール、日本、エチオピアをつなぐ、何か」を見つけたという漠然とした思いからでした。具体的なプランもなく、メールを送られた側も、困惑したと思います(笑)」

結果は、協力できないという断りの返事ばかりだったが、なかには、ハンドボールの雑誌への体験記の執筆依頼などもあった。そして、物品提供という形なら協力できると返事をくれたのが、渡作株式会社だった。

「新品のハンドボールのユニフォームを100着、エチオピアまで送ってくれました。それがとても嬉しくて、図々しく『1年後に帰国したら働かせてくれませんか』とメールを送りました。すると、『帰国後も気持ちが変わらなければ連絡をください』と返答をいただきました」

これが縁となり、その後も連絡を取り合い、同社に就職することになった。「あとで聞いたところ、私のことをタフで面白そうだと思ったそうです。後先考えずに行動するタイプですが、それがよかったのかもしれない」

### 現在の仕事

ハンドボールを中心にスポーツのウェア・グッズの製造・販売を行う Impal 事業部に所属しています。小さな会社なので、全社員がすべての業務に携わっていますが、そのなかでも、私はチームウェアのデザインの提案、発注・納品、展示会での販売などを担当しています。エチオピアは現在、内戦により不安定な状況にあり、かつて指導したコーチや子どもたちとも連絡が取れていません。しかし、いつかまた、ハンドボールなどのスポーツを通じて、エチオピア、そして世界の誰かを幸せにしたいと思っています。



渡作が寄付したユニフォームを着た子どもたち

### 先輩へメッセージ

協力隊の活動に熱中してのめり込むことも大切ですが、時には冷静になって自分を見つめ直し、2年後、5年後、10年後に何をしたいか、考える時間を大切にしてほしいと思っています。そして、そのときに感じたこと、考えたことを、そのまま放置するのではなく、行動に移してほしいです。一歩踏み出してみると、人とのつながりや思いがけないチャンスが、身近なところに転がっているように思います。



# 派遣から 始まる 未来



進学、非営利団体入職や  
起業の道を選んだ先輩隊員

一般社団法人  
ソゾ・パースペクティブ  
SOZO.Perspective設立

海老沢 穰さん Yutaka Ebisawa  
マレーシア/養護/2003年度1次隊・東京都出身



## 子どもはみんなクリエイター ICTで感性と表現をもっと引き出したい

25年間も公立学校教員として働いていながら、「ICT(情報通信技術)」で子どもの学びをクリエイティブに」とのテーマを掲げての独立起業。並大抵の決意ではないはずだ。しかし、2021年にICT教育を手がける一般社団法人SOZO.Perspectiveを設立した海老沢さんは軽やかな口調で独立の経緯を語る。

海老沢さんが特別支援学校の教員を志したのは大学生時代。障害がある人と接するボランティア経験で、その純粋な感覚と表現力に興味を覚えた。

大学院では障害児教育を専攻し、都内の養護学校(現在は特別支援学校)に教員として就職した。7年ほど教員経験を積み、特別支援の分野と同じく学生時代から志望していた青年海外協力隊に「現職教員特別参加制度」で03年に参加。赴任先はマレーシアだった。マレー半島の東海岸にあるトレンガヌ州で四つの学校の特別支援学級を巡回して授業をした。

「マレーシアの学校現場は権威主義的なところもありました。でも、私は怖い先生にはなれません(笑)。美術や音楽、体育を任せられたので、児童と一緒に遊ぶスタイルで授業をしました」

体育の授業といっても、用具も体育館もない。海老沢さんは地面に楕円のコーンを描き、ロープを跳び越えたりケンケン跳びをしたりしながらリレーをするという授業を提案。児童らが楽しそうに体を動かす様子を見た若い教員たちは触発されたようだった。児童以上に同僚の教員に「違う視点」を与えたことが海老沢さんの貢献だったのだろう。「私自身も、日本にいたときは違う視点ができなかった。活動先では私一人だけが日本人だっただけで、日本の常識なんて通用しません。もちろん、マレーシアの常識が絶対でもありません。いい意味で冷めた目で物事を見られるようになりました」。

この「第三者的な視点」は、帰国して日本の教育現場に戻ってからも役立つ。教員が学習指導要領に沿って教えるといった既存の教育手法に捉われず、アーティストなどの「外」との連携を常に考え、授業に活用できるようにしたのだ。「特に、振付師によるワークショップは素晴らしかったです。言語による表現が苦手な子どもたちでも、身体でならば自由な表現ができる可能性を大いに感じました」

海老沢さんは次にICTという「外」に関心を持った。理由は映像という表現方法の活用だ。既存の美術は立体造形や絵画が主だったが、タブレット端末の登場が教育環境を変え得ると考えたのだ。「写真や動画を撮って、編集して、簡単にアウトプットができるからです。14年ごろからiPadが教育現場に入ってきたので、中学3年生と一緒に卒業メッセージ映像を作りました」

生徒一人ひとりが自ら出演し、空を飛んだりメッセージボードを掲げたりしています。私が学校という枠で息苦しさを感じていたことはわかってもらいたいです。

追い風もあった。学校教育現場で生徒1人1台の端末環境を目指す「GIGAスクール構想」がコロナ禍のオンライン化によって前倒しで実現。映像などを使ったICT授業の豊富な実践経験のある海老沢さんには多様な依頼が舞い込んでいる。

「ほかの人とは違うことであっても、自分が『良い』と判断したらブレずにやり続けてきたからだと感じています」

この感覚は海外協力隊の経験者とは共有できるはず、と海老沢さんは断言する。「外」の視点を身につけると、自分の軸を客観的かつ強固に定めることができるのかもしれない。



① マレーシアの特別支援学級で授業中の海老沢さん。「現地では『チエグAB』と呼ばれていました。チエグはマレー語で先生の意味。僕はエビサワだからABです」  
② レゴとiPadを使った物語づくりの様子。「特別支援学校中学部の生徒たちに、手を動かして形を作って撮影して物語を作ってもらいました」  
③ レゴとiPadを使った物語。「5人の子どもたちが共同作り、iPadで文章を入力して物語を完成させました。超シュールなストーリーで、コンテストで最優秀賞をもらった作品です」  
④ Pagesの縦書き機能を使った俳句作りの実例。「iPad上で写真を見ながら、それに合わせた俳句を作るという試みです。斬新な作品が生まれました」

### 海老沢さんの歩み

1969年生まれ。東京学芸大学大学院修士課程修了。学部生時代に参加した自閉症療育ボランティアで、障害がある人の感性や表現に興味を持つ。

ピュアな人が多くて、本当に嬉しいときしか笑わなかったりします。でも、その笑顔は本当にすてきです。

2003年、協力隊に参加しマレーシアへ。

本当はもっと遠い国に行きたかったのですが、障害児教育で要請があったのがマレーシアでした。同じマレーシアでも、中国系の学校は子どもたちがきちんと整列したりして日本に近く、マレー系のほうはもっとアバウト。多様な環境で働いたことで、日本にいた頃とは違う視点を持つことができました。

2014年、iPadが職場の教育現場に導入される。

キーボードやマウスの操作が必要なパソコンとは違って、タブレットは端末だけで完結できます。もともと映像を使った授業をやりたいと思っていたので、iPadで何ができるかを考えて、試行錯誤を続けました。

2017年、Apple Distinguished Educatorに認定。

当時、日本国内で100人ほどが認定されていたと思います。所属は小学校から大学までさまざま。カンファレンスなどで交流する機会があり、世の中にはこんな面白い人たちがいるのだと驚きました。

2021年、一般社団法人SOZO.Perspectiveを設立。

学校や企業の研修会講師としての仕事のほか、新渡戸文化学園という私立小学校で情報の授業を隔週で担当しています。独立しても教育現場と関わることができて僕は本当に幸運です。

※ ADE…Apple Distinguished Educatorの略。アップル社のテクノロジーを活用して教育現場の変革に努める教育者のことで、同社が2年ごとに募集・認定を行う。



あの場所、  
地球の、  
あの日、  
あの場所で。

任地の思い出を聞きました。

モロッコ人の愛する  
コーヒータイム

私の任地であるモロッコのテトゥアンは地中海沿いの古い町で、ムスリムとクリスチャンが共に暮らすなど、異文化の交錯する不思議な地域でした。

そんな町で体育隊員として学校を巡回する活動のなか、お決まりの習慣だったのが、仕事終わりに先生方とカフェへ行き、コーヒーを飲みながら歓談することです。中東のカフェでは土鍋に入れた砂を熱して間接的にポットのコーヒー粉を煮出すという独特な淹れ方でコーヒーを出してくれるのですが、何より驚いたのは、「お茶会」にかける時間の長さでした。

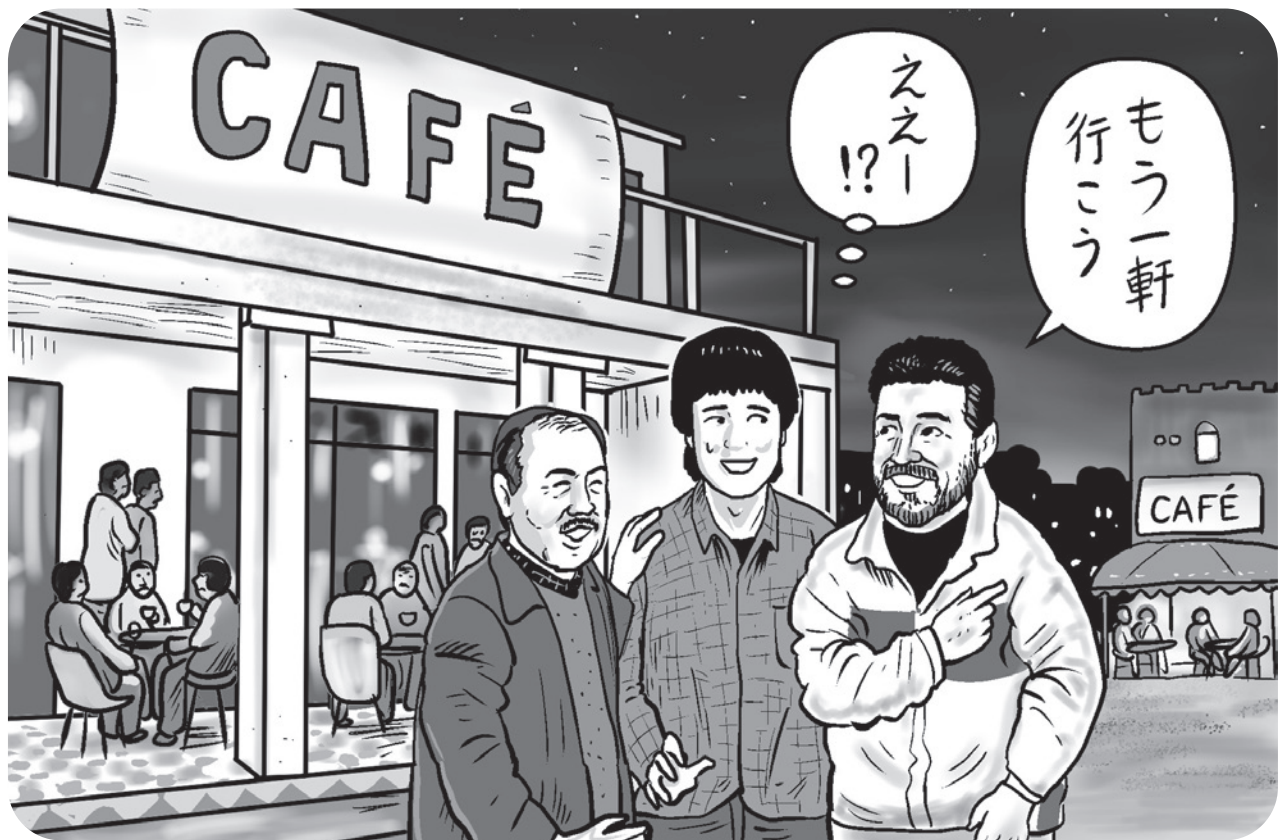


Illustration = 牧野良幸 Text = 飯淵一樹 (本誌)

もう一軒  
行こう

ええー  
!?!

16時に退勤して先生方とカフェへ行くと、たった一杯のコーヒーだけで2時間は粘ります。別に仕事の話をするわけではなく、個人的な雑談が中心です。それがお開きになると、よそのカフェへ移動するのですが、また別の知人や家族がいたりしてまた2時間。  
大体、決まった時間と場所に、決まった人がいるようです。そんな調子で2、3軒のカフェを「ハンゴ」するので、帰宅が22時を回ることもあり、その時間帯からやっと家で遅い夕食を取る人もいるのだとか。  
日本人の感覚では驚くほどのんびりした文化ですが、そこには、家族や友人との時間を大切にしている雰囲気が表れていると思います。コーヒーといえば、学校では朝と昼に校長がほかの先生にコーヒーを淹れて振る舞う習慣もあり、これは「今日も一緒に働けて嬉しい」という感謝の意味があるそうです。人とのつきあいを重んじるモロッコ人気質が、今でも大好きです。  
室井研一さん JICA郡山デスク  
モロッコ/体育/2007年度3次隊、  
ヨルダン/体育/2012年度2次隊、  
福島県出身



待ってます、あなたを！  
各界からのエール  
From  
福井県

①岩堀さんへ送る柔道着の箱詰め作業。4月半ばから6月までの1カ月半ほどで100着近くが集まった  
②現地の柔道連盟の会長に、届いた柔道着を手渡す岩堀さん



地元出身隊員に県民からの物資支援を



福井県では2002年度から、当県出身でJICA海外協力隊など海外ボランティアに参加している方を対象に任地で必要な物資を送る「海外ボランティア支援事業」(※)を行っています。支援物資は活動で使用する物に限り、現地では調達が難しい場合に要請をいただくと、県から広く県民に呼びかけ、集約して現地へ送るといった流れです。これまでにスポーツ用品や調理器具などさまざまな物資を、28カ国、42名のボランティアに送付しています。物資到着後は、活動での活用状況を任意でご報告いただき、県のHPで紹介することも行っています。

直近では、青年海外協力隊員としてマダガスカルで活動中の岩堀陸宗さん(柔道/21年度2次隊)に、柔道着約100着を送っています。この4月に要請をお受けし、福井県国際交流協会とも連携して募集を行いました。福井県柔道連盟など競技団体からの呼びかけもあって早期に必要な数を集めることができ、船便で7月に発送。9月末に現地に届きました。

この支援事業を通じて県出身ボランティアの活躍が県民に伝わり、国際交流や国際協力への関心が高まれば嬉しい限りです。近年は当県でも外国人住民が増加傾向にあり、多文化共生の取り組みも注目を集めています。県出身者が帰任され、海外で培われた経験や知見が地域に広がることにより、国際的視野に立った異文化理解の促進につながるものと期待しています。

当県では、青年海外協力隊福井県OB会や福井県青年海外協力隊等を支援する会、各市町など多くの関係団体も出身隊員を応援しています。また、ご家族やご友人などの身近な方々は、隊員ご本人が思う以上に、健康や現地での安全を祈っているはず。安全最優先で活動されることを願っています。



湯川直さん  
福井県産業労働部国際経済課 課長  
ゆかわただし ●福井県出身。大学卒業後、福井県に入庁。国際政策課や福井県上海事務所(駐在、観光振興課、インバウンド推進団体への出向など)を経て2021年4月より現職。国際政策課時代には青年海外協力隊の県担当窓口も経験した。

※福井県では2001年度から、県出身の海外ボランティアに「福井県国際協力大使」を委嘱。翌02年度から、協力大使の要請に応じて、現地で必要な物資を送る支援を始めた。協力大使の委嘱は13年度で終了したが、その後も支援物資の送付は「海外ボランティア支援事業」として継続している。



# INFORMATION

JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ

## PROGRAM

### 「世界の笑顔のために」プログラム 2022年度秋募集が開始

昨年度の秋募集以来1年ぶりとなる10月中旬に、「世界の笑顔のために」プログラムの一般公募が開始されました。今回はスポーツ用品、楽器類、日本文化関連品、福祉関連品など多くの物品を日本国内で募集して各国へ届けることができ、たくさんの感謝の言葉をいただきました。物品を提供することで国際協力に参加できる身近な機会でもありますので、お知り合いの方などにもぜひお声がけください。募集物品リストなど詳細については、JICA海外協力隊のウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちらから  
<https://www.jica.go.jp/partner/smile/index.html>



## NEWS

### 秋田で高橋優さんの音楽フェス開催 協力隊紹介ブースの出展も

JICA海外協力隊のCMソング「Piece」の楽曲を制作された高橋優さんが主催する野外音楽フェス「秋田CARAVAN MUSIC FES 2022」が、9月17日(土)、18日(日)の2日間、北秋田市の大館能代空港周辺ふれあい緑地で開催されました。「音楽で秋田県を元気にしたい」との想いで2016年から開催されており、今回で5回目を数えます。会場内に設置されたJICA海外協力隊ブースでは、東北出身OVの活動紹介や世界の楽器に触れられる企画、高橋優さんへのインタビュー動画の上映などが行われ、多くの方々に足を運んでいただきました。



## NEWS

### グローバルフェスタジャパン2022開催

国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN2022」が、10月1日(土)、2日(日)の2日間、会場の東京国際フォーラムとオンライン配信のハイブリッド形式で開催されました。テーマは「ここからつながる世界。ともにここから創る未来。みんなが参加する国際協力」。著名人によるトークショーやパネルディスカッション、子どもも参加できるワークショップなど、盛りだくさんな内容でした。オンラインイベント「協力隊から始まる国際協力の道」では、JICA海外協力隊への参加を機に国際協力の世界へと進んで活躍されてきた、藤掛洋子さん(パラグアイ/家政/1992年度2次隊)と石川直人さん(スリランカ/環境教育/2002年度2次隊)によるパネルトークも行われました。



／家政／1992年度2次隊)と石川直人さん(スリランカ/環境教育/2002年度2次隊)によるパネルトークも行われました。

## NEWS

### ツーリズムEXPOジャパン2022で 協力隊OVが活動紹介

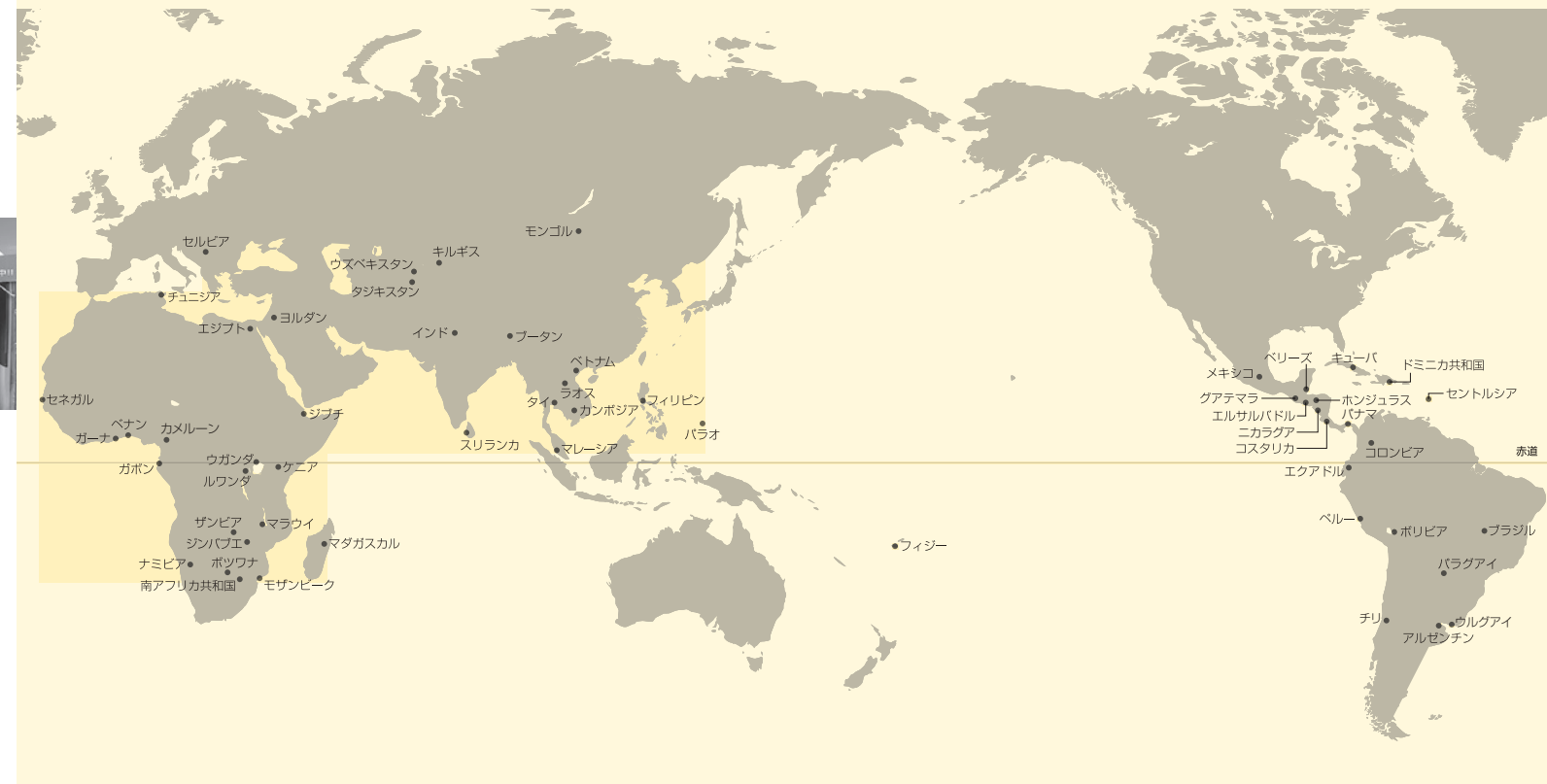
9月22日(木)～25日(日)に東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン2022」に、JICA海外協力隊の認知度向上と事業理解促進の目的で、青年海外協力隊事務局がブースを出展しました。ブースでは、協力隊員OVが各自の派遣国と職種が大きく書かれたTシャツを着て、来場者にJICA海外協力隊の概要と活動の紹介をしました。一般公開日の24日(土)、25日(日)には、海外に興味のある方が多数来場し、OVの説明に熱心に耳を傾けていました。



# JICA海外協力隊派遣現況

(2022年9月末現在)

現在の派遣国数  
56カ国



## ■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	25	1
ガーナ	25	
ガボン	13	2
カメルーン	20	1
ケニア	28	
ザンビア	3	
ジブチ	4	
ジンバブエ	10	
セネガル	2	
ナミビア	9	
ベナン	2	
ボツワナ	5	
マダガスカル	26	
マラウイ	20	
南アフリカ共和国	8	1
モザンビーク	12	1
ルワンダ	32	

## ■ アジア地域

国名	一般	シニア
インド	8	
ウズベキスタン	5	1
カンボジア	24	
キルギス	5	
スリランカ	4	
タイ	14	1
タジキスタン		1
フィリピン	3	
ブータン	15	4
ベトナム	25	
マレーシア	7	4
モンゴル	4	
ラオス	17	4

## ■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
パラオ	13	3
フィジー	1	1

## ■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	7	

## ■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	15	
チュニジア	14	
ヨルダン	18	1

## ■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
アルゼンチン		1		2
ウルグアイ		1		
エクアドル	7			
エルサルバドル	6			
キューバ		1		
グアテマラ	11	1		
コスタリカ	4			
コロンビア	5	1		
セントルシア	6			
チリ	2			
ドミニカ共和国	14		6	
ニカラグア	3	2		
パナマ	3			
パラグアイ	15	2		
ブラジル			10	1
ペルー	2			
ペルー	12	1		
ボリビア	9			
ホンジュラス	2			
メキシコ	2	1		

(単位:人)

## ■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	546 (223/323)	37 (27/10)	16 (3/13)	3 (2/1)	602 (255/347)
累計 (男性/女性)	46,369 (24,548/21,821)	6,596 (5,327/1,269)	1,559 (601/958)	550 (254/296)	55,074 (30,730/24,344)

一般 = 青年海外協力隊/海外協力隊    シニア = シニア海外協力隊    日系一般 = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊    日系シニア = 日系社会シニア海外協力隊

# クロスロード [ 2022年11月号 ]

第58巻第10号 通巻682号  
発行日 2022(令和4)年11月1日

編集・発行:独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル

制作協力:一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7 昇龍館ビル2階  
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン:(株)AND  
印刷・製本:弘報印刷(株) 校正:佐藤智也

## 編集後記

JICA事務局:秋はイベントが多く、協力隊ブースもさまざまなところで出展していますが、以前より来場者も増え、どこも盛況です。11月は協力隊の秋募集も始まり、応募説明会も全国で開催されています。活動紹介もあり、OVと共に盛り上げていきます! (脇田雄気)

クロスロード編集室:アジアのフードコートで2人組の女性客の後ろの席に座った男。振り返って女性客のバッグを探り、財布を持って立ち去った。さりげない動きに女性客も近くの席にいた私もすぐにスリと気づかず、後に大騒ぎに。▶特集もご注目を!(千川美奈子)

『クロスロード』は、  
JICA海外協力隊のウェブサイト  
でも公開しています。



本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。  
アイデアも大募集中です。

今号の『クロスロード』はいかがでしたか。ぜひご意見やご感想を編集室のメールにお寄せください。「こんな記事があれば派遣先で役立つのに」「こんな記事なら読みたい」といったご要望やアイデアも随時募集しています。

『クロスロード』編集室  
[crossroads@sojocv.or.jp](mailto:crossroads@sojocv.or.jp)







冷やして2日目も楽しめる  
「サバの南蛮漬け」



ナポリタン風味  
「ジョロフライス」



給食をもらって嬉しそうなお子さんたち



巡回した小学校のキッチン。給食を作っているところ



酸っぱい伝統料理、バンクー(左)



きりのともみ  
桐野智美さん

ガーナ/栄養士/2015年度4次隊・鹿児島県

民間企業で健康食品と化粧品の研究・商品開発などに従事したのち、協力隊に参加。ガーナで国連世界食糧計画(WFP)の栄養士として、スタッフと共に母子の栄養不良予防のプロジェクトや、学校給食の調査を実施。現在、外国人就職サポートの業務に携わる。

現地で作った  
日本食

「サバの南蛮漬け」

活動が忙しく日本食をガーナの人々に振る舞うことはなかったものの、自炊は毎日していました。なかでも、日本らしい味に飢えたときによく作っていたのがサバの南蛮漬けです。住んでいた地域では内臓がついたままのサバが丸ごと冷凍されて売られていたので、解凍して使いました。片栗粉の代用品としてメイズ粉(とうもろこし粉)を使用しています。暑い地域だったので、冷やして食べるとさっぱりしておいしかったです。ちなみに、ガーナでサバは「サーモン」と呼ばれていました。

<編集室で再現した感想>

難易度 ★★☆☆☆  
達成感 ★★★★★

サバが切り身の状態では手に入らなかったため、内臓処理などしない簡単でした(内臓処理からする場合は難易度が上がると感じます)。メイズ粉の香りがどこか異国感を醸す、面白い南蛮漬けでした。私はサバを切っている時点で指に突き刺さるような大きな骨を取ってしまいましたが、揚げるので取り除かなくても食べられたのかもしれない。野菜がたくさんとれてタレもおいしいと周囲に好評でした。

日本で作る  
現地めし

「ジョロフライス」

私が最初においしいと思ったガーナ料理で、ガーナの一般的なチョッパー(大衆食堂)でも提供されているピリ辛のご飯メニューです。トマトベースで日本人にもなじみのある味だと思います。ガーナ料理は辛いものが多く、「シト」と呼ばれる唐辛子ベースのペーストもその一つで、ご飯や肉につけて食べます。一方、酸っぱいのが、メイズとキャッサバを発酵させ、練って大きな団子状にした「バンクー」と呼ばれる伝統料理。赴任当初はどう頑張っても受け付けなかったのに、気がついたら大好物になっていました。手で食べることに慣れていき、味覚も習慣もガーナに染まったと嬉しくなりました。

<編集室で再現した感想>

難易度 ★★☆☆☆  
達成感 ★★★★★

肉でだしをとってご飯を炊くスープができ、その肉を揚げることでメインディッシュにもなる、一石二鳥の料理と感じました。肉は手羽元のほか、手羽先でも作りました。手羽元のほうはだしがよく出る一方、手羽先のほうが揚げ焼きした際、皮目のパリッと感が出るように感じました。ご飯はかつお節が入ることで和の感覚もあるパエリアのような味、食感に仕上がりました。

●材料(2人分)

- 冷凍サバ……………1尾
- メイズ粉(とうもろこし粉) ……適量(大きじ2くらい)
- 玉ねぎ……………1個
- にんじん……………小1本
- ピーマン……………1個
- (調味料)
- 砂糖……………大きじ3
- しょうゆ……………大きじ4
- 酢……………大きじ3
- 水……………150ml
- 唐辛子の輪切り……………適量
- 揚げ油……………適量

●レシピ

- ①解凍したサバの内臓を取って食べやすい大きさに切る。
- ②玉ねぎを薄切り、にんじん、ピーマンを千切りにする。
- ③(調味料)の材料を火にかけ、ひと煮立ちさせておく。ポウルに移し、②の生のままの野菜とあえる。
- ④切ったサバはキッチンペーパーなどで水気を拭き取り、メイズ粉を全体にまぶす。
- ⑤④のサバを少し色がつくまで揚げ、③のポウルに漬け込む。

<桐野さんからのアドバイス>

サバにうろこがある場合は、包丁の先で尾から頭側へこすって取ってください。内臓の処理は、まず胸びれの根元から腹びれの根元まで斜めにカットして頭を切り落とし、肛門から頭側へ向かっておなかに包丁を入れ、内臓と血合いを出し、おなかの内側を水洗いします。

●材料(4人分)

- 米……………2合
- 鶏手羽元……………200g
- 玉ねぎ……………1個
- ピーマン……………1~2個
- ガーリックパウダー……………大きじ1
- ナツメグパウダー……………小さじ1
- チリパウダー……………小さじ1~好みの量
- 固形コンソメ……………1個(現地では Maggi を使用)
- かつお節……………5~10g
- トマトペースト……………大きじ1
- トマト缶……………200g
- 油……………適量
- こしょう……………適量
- 塩……………①で小さじ1g、②と⑦は適量

●レシピ

- ①油を引いた鍋に手羽元、粗みじん切りにした玉ねぎのうち1/3程度、ガーリックパウダー、ナツメグパウダー、塩を入れ、炒める。
- ②油が全体になじんだら、ヒタヒタになる程度の水(3カップ程度)を入れて煮込む。手羽元を取り出し、ブイヨンスープの完成。
- ③別の鍋に油を引き、トマトペースト、残りの玉ねぎを軽く炒め、トマト缶を加えてペースト状にする。
- ④③の鍋に②のブイヨンスープを2カップ、固形コンソメ、細切りにしたピーマン、かつお節、好みでチリパウダーを入れて沸騰させる。
- ⑤沸騰したら洗って水を切っておいた米を入れ、時々混ぜながら10~15分程度、ふたをせずに煮込む。
- ⑥塩で味調整。米が硬かったら水が②のブイヨンスープを足して軟らかさを調整する。火を消してふたをして10分程度蒸らす。
- ⑦油を多めに入れたフライパンで②の手羽元を揚げ焼き、塩・こしょうで味を調える。
- ⑧⑥のご飯をプレートに盛り、⑦の手羽元を添えて完成。

<桐野さんからのアドバイス>

かつお節はだしをとるための干し魚の代用品として使いました。玉ねぎ、ピーマン、きゅうり、トマトを細かく切って、豆とあえたサラダ(クリーム系のドレッシング、またはマヨネーズとケチャップで味付けしたもの)を同じプレートに盛るとさらにガーナ感が増します。





現在約30社と取引し、幅広い品ぞろえの店舗に。毎週のように通ってくれるお客さんが多く、インドネシア人のお客さんとはインドネシア語で会話している。「母国語で会話できると、家に帰ったような安心感があると思うのです」(松本さん・写真左から2人目)

## 日本で暮らす外国人に欠かせない食材と安らぎを提供する輸入食材販売店

広島県尾道市の瀬戸内海に浮かぶ因島に外国人でにぎわう店がある。アジア各国の食材や日本のスーパーではあまり見かけない野菜やハーブが並ぶ店内は、ここが日本だと忘れてしまいそうな雰囲気だ。

松本圭太さんが2018年に開いた「トコアリ」はインドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムの食材を中心に扱い、その約半数がイスラム教徒向けのハラール食材だ。

松本さんはインドネシアで陸上競技のコーチとして活動し、帰国後、広島県でインドネシア語の通訳をしていた。「その際、日本に住むイスラム教徒から困り事を聞きました。イスラム教では豚肉やアルコールが禁忌なのに、食材表記が日本語しかなく買い物に困ると。英語と母国語の表記があればベストだと思いました」。開店に向けて松本さんは、輸入商社に片っぱしから電話をかけ、商品の仕入れが可能か確認した。実績がないことを理由に断られたところも

あるが、直接購入可能なところから仕入れを始め、徐々に取引先を増やしていった。

「3年前に扱い始めた野菜は、インドネシア人の青年が働く県内の農家で採れたものです。外国人が好むものを置き始めるうちに常時10種類程度に増えました」。インドネシアでクマンギと呼ばれるレモンバジル、フィリピンで一般的な冬瓜に似た野菜のウポなどの新鮮野菜が目当ての客も多い。レンジで加熱するだけの冷凍総菜も好評だ。

「特に地方では外国人は重要な働き手で、今後も増えていくでしょう。しかし食品の表記がわかりにくい、イスラム教の礼拝所が整っていないなどの問題もあり、日本での外国人受け入れ体制はまだ満足ではないといえます。母国を身近に感じられる食材店として、外国の方が日本で安心して暮らせる環境をつくる一助になりたいですね」



# ＼ うちのこだわり / OB・OG ショップ



ほうれん草に似たヒユナ、赤玉ねぎなどの野菜は人気商品だ。商品に松本さん手書きの説明が添えられることもある

### SHOP DATA

#### Toko ALI Innoshima (トコアリ)

経営者：松本圭太さん  
(インドネシア/陸上競技/  
2013年度1次隊・茨城県出身)  
ウェブショップ  
[https://www.instagram.com/toko\\_ali/](https://www.instagram.com/toko_ali/)



Text=村重真紀 写真提供=トコアリ



見やすく読みまがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

